

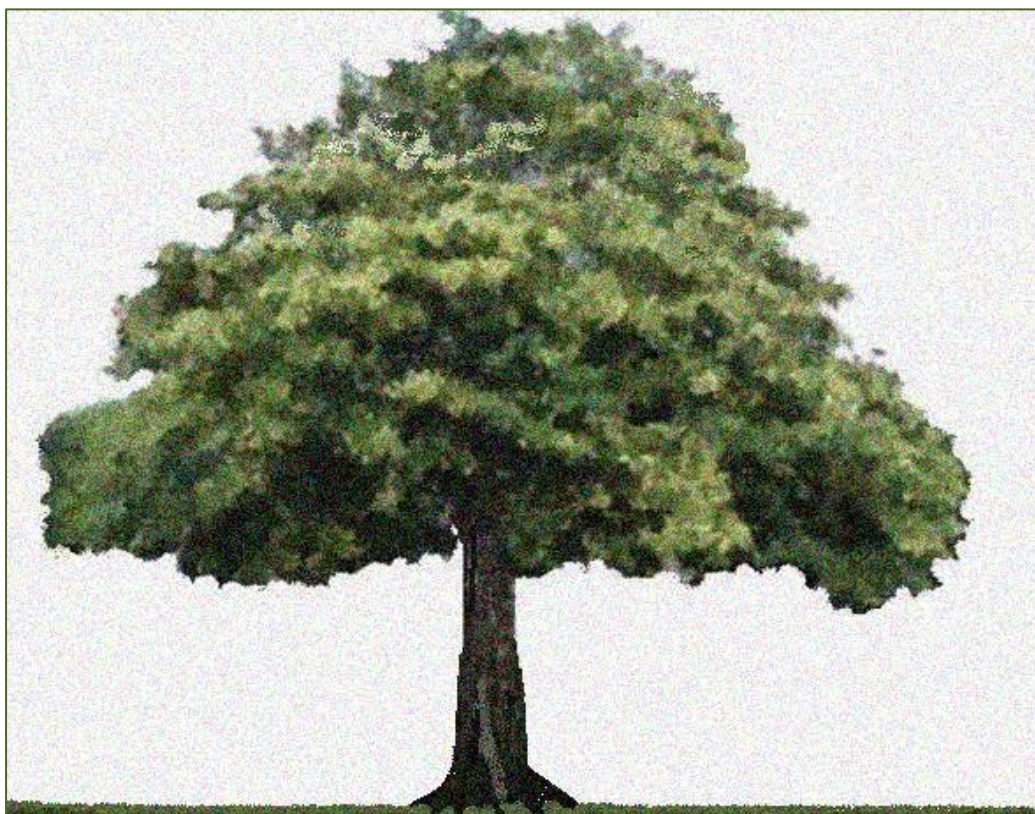
第二期 しなのきプラン

(2018~2020 年度)

～長野市の子どもたちの「知・徳・体」を
バランスよく伸ばしていくために～

目指す人間像

グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した18歳



2018年4月
長野市教育委員会

目 次

〇まえがき

I	しなのきプラン29の成果と課題	1
1	5つの視点に沿った検証	
	(1) 児童生徒の「学びを導く」教員の力量向上について	
	(2) 児童生徒の「学びの質や広がり」の保障について	
	(3) 児童生徒の「学びの基盤」整備（安全・安心な教育環境）について	
	(4) 児童生徒の「学びをつなぐ」学校種間（幼保小中高）の連携について	
	(5) 児童生徒の「学びを支える」家庭・地域との連携について	
2	しなのきプラン29の総括	
II	第二期しなのきプランの基本方針	17
1	第二期しなのきプランの基本的な考え方	
	(1) 計画の位置付け	
	(2) 基本方針	
	(3) 今後、更に力を入れて取り組むべきことの整理	
2	第二期しなのきプランの全体イメージ（図）	
III	第二期しなのきプランの目標と具体的な取組	21
1	教育活動の基盤となる教職員の力量の向上のために	
2	知：確かな学力の育成のために	
3	徳：豊かな心の育成のために	
4	体：基礎的な体力の育成のために	
5	学校間の連携を推進するために	
6	地域・家庭・事業所との連携を推進するために	
7	取組一覧	
	【資 料】	39
	【用語解説】	48



ま え が き

長野市教育委員会では、2015年（平成27年）4月に、「グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した18歳の青年」を本市の目指す人間像とし、それに向かう具体的な施策として「しなのきプラン29」を策定しました。「しなのきプラン29」は、プラン策定時の2015年に小学校へ入学した児童が、中学校を卒業する2024年には大きな成果につながることを目指す9か年計画の第一期計画として位置付け、3年間に渡り実施してまいりました。「第二期しなのきプラン」は、第二期計画であると同時に、2017年（平成29年）4月に策定した第二次長野市教育振興基本計画の学校教育分野の実施計画として位置付けるものです。

「しなのきプラン29」の検証からは、標準学力検査（NRT）等の諸調査の結果分析を生かした指導改善のサイクルが小学校に定着したこと、中学校の全国学力・学習状況調査における全国平均との差が縮小したこと等の成果が見られた一方で、「知識及び技能」の確実な定着、「思考力・判断力・表現力等」の更なる向上等の課題も明らかとなりました。

また、2017年（平成29年）3月に公示された新学習指導要領では、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現、カリキュラム・マネジメントの確立等により、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力、「生きる力」を一層確実に育成することが求められています。そして、その際には、社会との連携及び協働による「社会に開かれた教育課程」の実現が重要であることが示されています。

「第二期しなのきプラン」では、第二次長野市教育振興基本計画に示した「次世代を担う子どもたちの『生きる力』の育成」に向けて、「教職員の力量の向上」を全ての教育活動の基盤とし、「学校間連携」、「学校、地域、家庭、事業所との連携」の中で、「確かな学力の育成」、「豊かな心の育成」、「基礎的な体力の育成」を重点に取り組むことで、知・徳・体をバランスよく伸ばし、子どもたちに「生きる力」を育ててまいります。

市民の皆様には、この計画の推進に向けて、本プランの内容を十分ご理解いただきたく存じます。そして、学校、地域、家庭、事業所と市教育委員会が心をひとつにして、プランの推進にあたり、長野市教育の基本理念にある「明日を拓く深く豊かな人間性」の実現につながることを強く願う次第です。

2018年4月

長野市教育委員会

I しなのきプラン29の成果と課題

1 5つの視点に沿った検証

第二期しなのきプランの策定にあたり、しなのきプラン29で取り組んだ以下の5つの視点から、しなのきプラン29の成果と課題について検証しました。

- (1) 児童生徒の「学びを導く」教員の力量向上
- (2) 児童生徒の「学びの質や広がり」の保障
- (3) 児童生徒の「学びの基盤」整備（安全・安心な教育環境）
- (4) 児童生徒の「学びをつなぐ」学校種間（幼保小中高）の連携
- (5) 児童生徒の「学びを支える」家庭・地域との連携

(1) 児童生徒の「学びを導く」教員の力量向上について

①実施した主なプランと取組状況

【教員の授業力の向上】

長野市教育センターでは、信州大学と連携して教員研修体系を整備し、教員のキャリアステージに応じた研修、多様なニーズに応じた研修を実施するとともに、教職員一人一人の研修履歴の様式を整備することによって、主体的な研修を促しました。また、年間128～147の研修講座を開設し、およそ3700～3800名が受講しました。その中で、文部科学省の学力調査官等を招聘し、最新の教育事情について学ぶ研修講座を年間10講座開設しました。

長野市教育センターでは、キャリア教育研究委員会、学力向上研究委員会、活用問題検討委員会、学校体育・学校保健研究委員会を設置し、諸調査の分析に基づく指導改善等の実践研究を行い、年間12～18回の授業を公開しました。授業研究を通じて研究委員の実践力を高めるとともに、研究内容をまとめた冊子「長野市の教育」を各校へ配付し、各校の研究の充実につなげました。

【しなのき授業スタンダードの普及、指導主事による学校訪問支援】

日々の授業改善のため、1時間の授業モデル「しなのき授業スタンダード」を示すとともに、各教科・領域等の専門的な授業支援や校内研修等、学校のニーズに応じて指導主事を派遣しました。3年間の派遣回数は延べ750回以上、1年間の1校あたりでは約3回となり、児童生徒や教職員の実態に応じた校内研修を実施することにつながりました。

【指導改善のための各種調査の活用】

児童生徒の実態を客観的に把握し、結果分析に基づく日常的な指導改善を進めるため、小学校4学年、5学年、6学年、中学校1学年で標準学力調査（NRT）を実施しました。また、小学校6学年と中学校3学年を対象に実施される全国学力・学習状況調査についても、各校や市教育委員会で結果分析に基づく指導改善を進めました。更には、課題であった中学校の活用力を高めるため、長野市教育センターで設置した活用問題検討委員会が作成した活用問題調査を実施・分析し、指導改善に役立てました。

②主な成果と課題

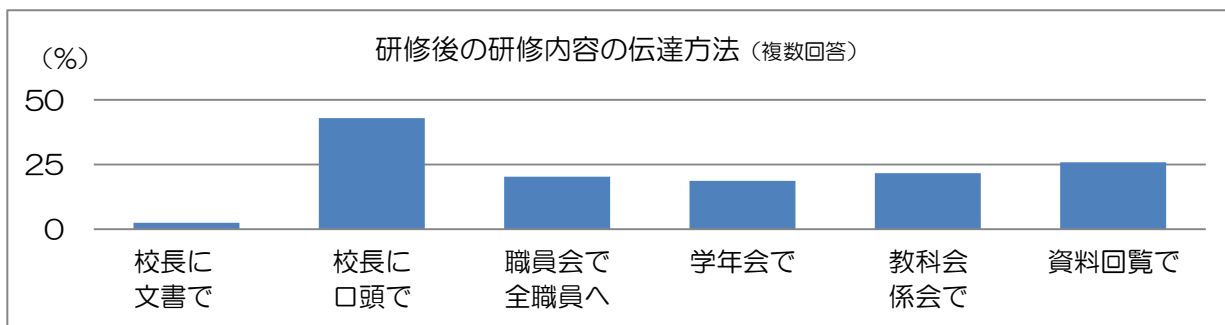
【教員の力量向上について】（成果：◎ 課題：●）

- ◎信州大学との連携による研修体系の整備、ニーズに応じた研修や最新の教育事情を学ぶ研修の充実により、教員の主体的な研修への意欲が高まりました。
- 新学習指導要領への対応、教育課題に応じた研究組織の編制
- 研修で身に付ける力量、指標についての研究と研修体系への反映・改善
- 研修内容の活用度や校内での共有・伝達状況の把握と向上

【長野市教育センター主催の研修講座における年間の延べ受講者数と満足度の推移】

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
年間講座数と延べ受講者数	147 講座 3,758名	134 講座 3,774名	128 講座 3,865名
受講者の満足度肯定的な回答割合	95%	96%	96%

【平成 28 年度 長野市教育センター主催の17の研修講座における受講者アンケートから】



子どもと向き合う時間の確保、業務改善の観点から年間講座数を削減しましたが、**受講者総数は増加**しています。また、研修後の受講者によるアンケートでは、「研修の内容や資料は役に立つか」との問いに、**95%以上の受講者が「かなりそう思う」「どちらかというと思う」と回答**しています。研修体系が整備され、主体的な研修計画の立案が可能になったことや教職員のニーズに応じた研修が充実したことで、**教職員の意識が高まっているもの**と考えます。今後は更に、研修で身に付ける**教職員の力量に係る指標**について研究を進め、研修履歴「私の研修」の活用促進を図るとともに、研修体系をより効果的なものにしていく必要があります。また、研修後の伝達や活用については、校長に口頭で報告する割合が最も高くなっており、**校内で十分に伝達・共有を図り、校内研修・OJTが更に充実するよう**にしていく必要があります。

更には、2020年度から小学校で、2021年度から中学校で完全実施となる**新学習指導要領や多様な教育課題**に関する研修講座の充実や研究組織の編制を行い、**完全実施に向けた準備と多様な教育課題に対応**できるようにしていく必要があります。

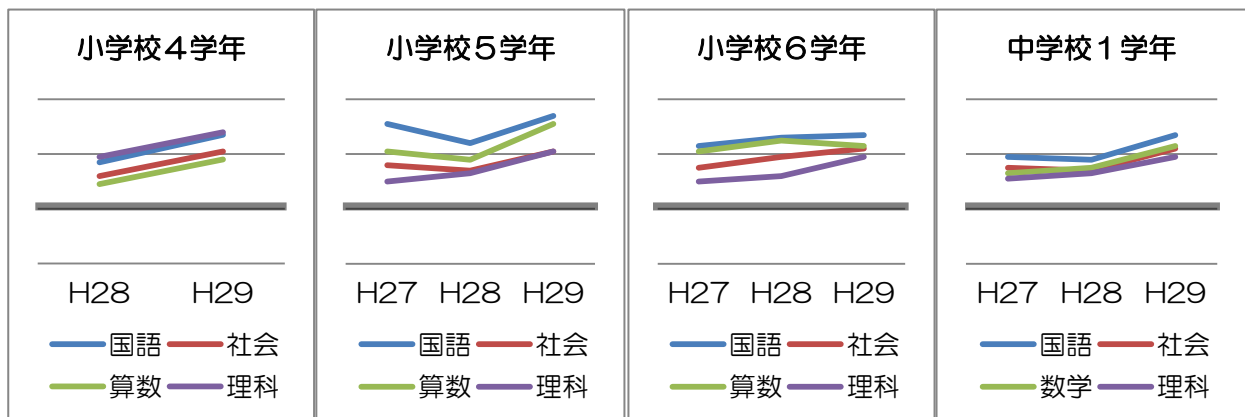


【指導改善のための各種調査の活用について】（成果：◎ 課題：●）

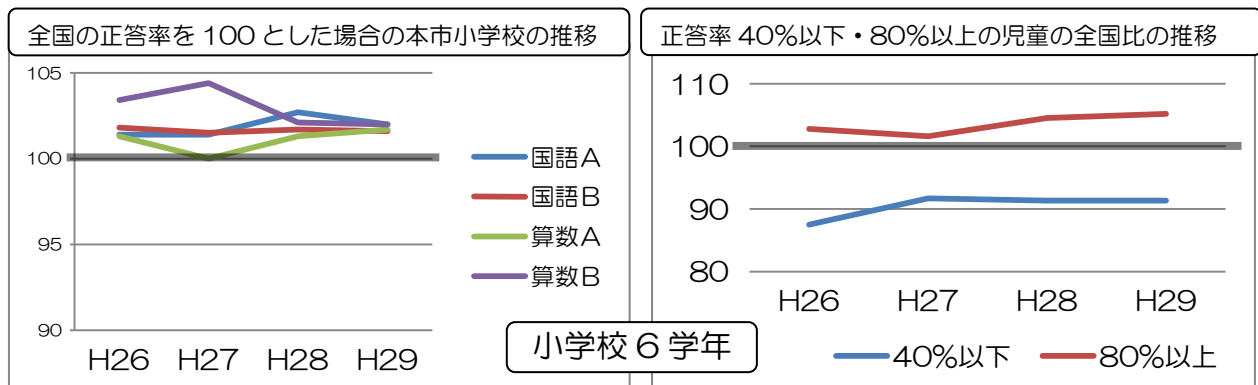
- ◎小学校では、指導改善のサイクルが定着し、諸調査で全国を上回る結果を維持しています。
- ◎中学校では、全国学力・学習状況調査で全国平均との差が縮小し、活用に関するB問題の正答率が改善の傾向にあります。
- ◎キャリア教育の視点を取り入れた授業により、目標と見通しを持ち、努力を継続できる【未来力】が向上しています。
- 「知識及び技能」の確実な定着、「思考力・判断力・表現力等」の更なる向上
- 積極的に人間関係を築く【絆力】、粘り強く課題に対応し、行動する【実践力】の向上
- 新学習指導要領を踏まえた教育活動の充実

小学校

【標準学力検査(NRT)の市全体の結果 学年・教科別偏差値平均の経年推移(全国 —)】



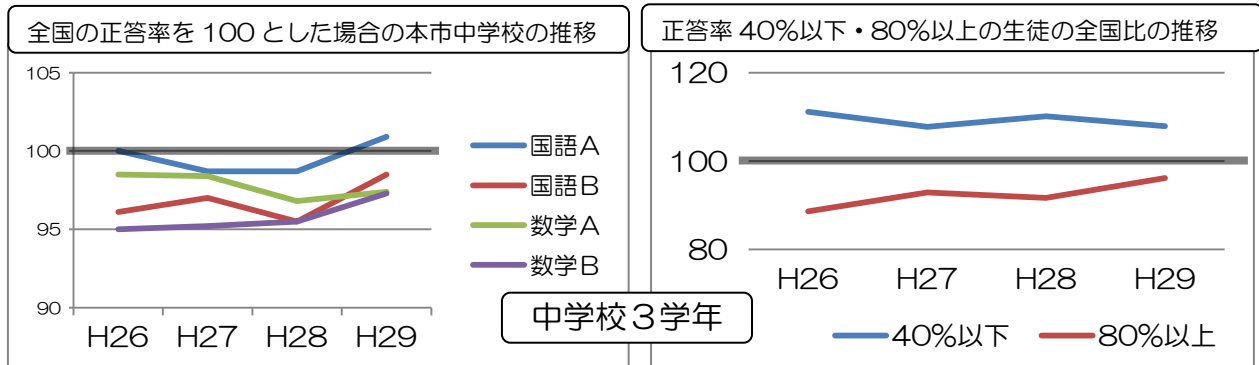
【全国学力・学習状況調査 調査結果(H26~29) A問題：主として「知識」 B問題：主として「活用」】



標準学力検査(NRT)では、平成27年度と比べ、小学校の全ての学年及び全ての教科で全国平均を上回り、偏差値が上昇しています。(※中学校1学年は小学校6学年の内容について検査)
 NRTの分析シート等を活用して定着不十分な領域や内容を明らかにするなど、小学校では、客観的な調査結果の分析に基づいた補完指導や指導改善を進めるサイクルが定着してきたことで、偏差値が上昇してきていると考えます。全国学力・学習状況調査においても、全国平均以上を維持している状況です。また、正答率が低い児童は全国より少なく、正答率が高い児童は全国より多い状況です。

中学校

【全国学力・学習状況調査 調査結果(H26～29) A問題：主として「知識」 B問題：主として「活用」】



【中学校 活用問題調査の結果から 出題形式別正答率】

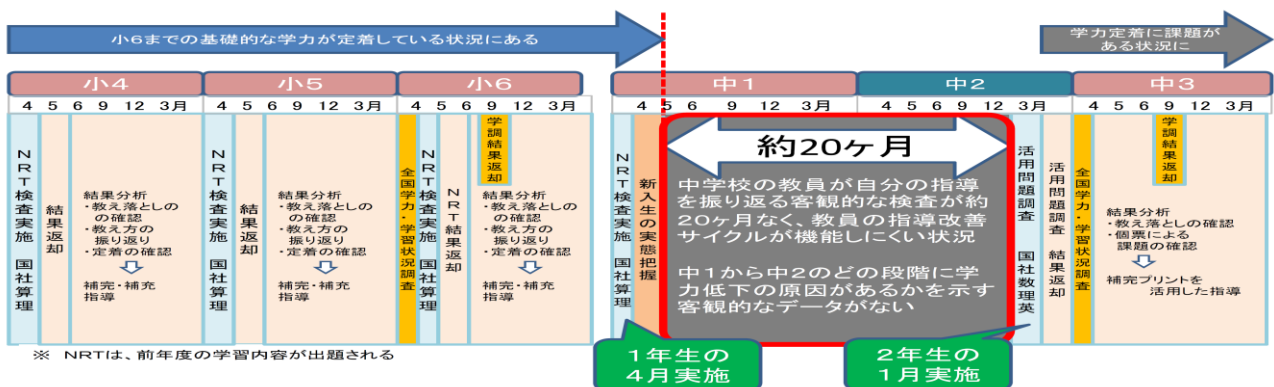
年度・項目		国語	社会	数学	理科	英語	平均
H27	選択式	53.4		29.5	55.6		46.2
	短答式	59.1		53.6	36.0		39.6
	記述式	32.9		23.0	25.6		27.2
H28	選択式	72.9	63.1	57.8	51.7	60.9	61.3
	短答式	80.0	42.6	41.8	54.8	15.1	46.9
	記述式	58.6	30.9	14.2	42.8	49.6	39.2

中学校では、全国平均を下回る状況が続いています。また、正答率40%以下の生徒が全国を上回るとともに、正答率80%以上の生徒が全国を下回る状況にあります。しかしながら、平成29年度は、国語Aでプラン開始後、初めて全国平均を上回るとともに、全国平均との差が縮小するなど、改善の兆しが見られます。

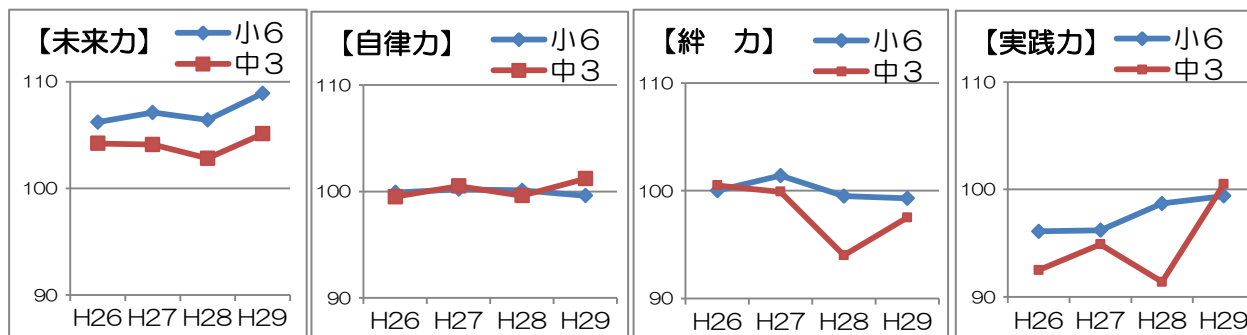
また、市独自の活用問題調査を実施したことで、活用に関するB問題の平均正答率が全国平均に近づきつつあります。この活用問題調査は、長野市独自の取組であり、全国との単純比較はできませんが、全ての実施教科において、記述式の正答率が低い傾向にあるため、今後は、「知識及び技能」の確実な定着に加え、「思考力・判断力・表現力等」の更なる向上を図る必要があります。

小学校に比べて、中学校の正答率が低い一つの要因としては、入学以降、中学校2学年の3学期に実施する活用問題調査まで、客観的な調査結果の分析に基づく継続的な指導改善のサイクルが確立していないことが考えられます。

【小学校4学年から中学校3学年までの諸調査と指導改善のサイクルの状況】



【長野市で大切にしたい資質・能力（意欲・態度）の項目についての推移】（全国=100）



※全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙の中の関連する質問項目について、肯定的な回答について全国を100として集計したもの。

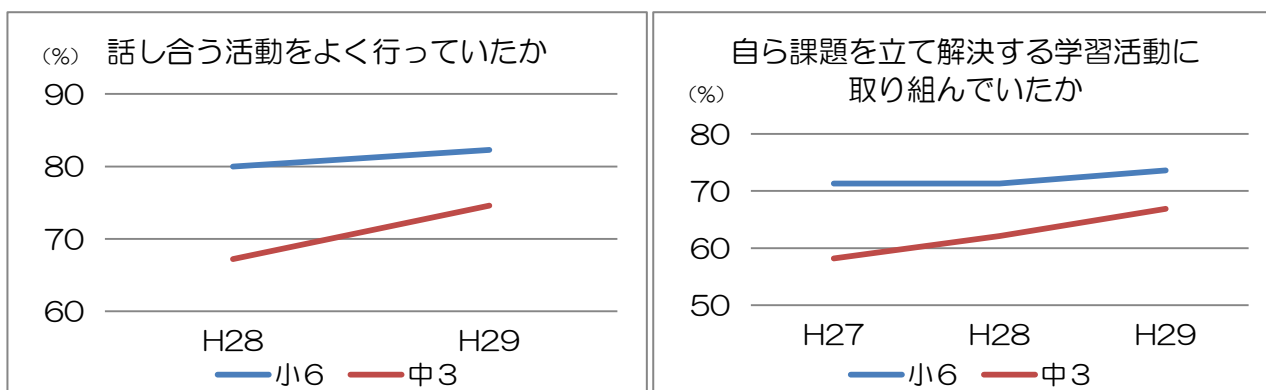
【未来力】 将来の夢や目標と見通しを持ち、努力を継続できる力

【自律力】 規範意識を持ち、自分をコントロールする力

【絆力】 他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力

【実践力】 獲得した知識・技能及び思考力・表現力を駆使して、粘り強く課題に対応し、行動する力

【話し合いや探究的な学習についての質問に対する肯定的な回答割合の推移】



全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙より

【未来力】については、小学校、中学校共に全国を上回る状況です。キャリア教育の視点を取り入れた教育課程の編成や授業づくりを今後も大切にしていきたいと考えます。【自律力】は、おおむね全国平均並みですが、道徳教育の充実等により、更に高めていく必要があります。

【絆力】は、小学校、中学校共に全国をやや下回る傾向にあります。また、【実践力】は、小学校、中学校共に全国を下回る年度が多い状況ですが、改善傾向が見られます。【絆力】に関する話し合いや、【実践力】に関する探究的な学習についての質問に対する肯定的な回答の割合は、小学校、中学校ともに向上してきていますが、中学校では全国平均を下回る状況にあります。

今後は、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、積極的に人間関係を築く【絆力】、粘り強く課題に対応し、行動する【実践力】の更なる向上を図る必要があります。



(2) 児童生徒の「学びの質や広がり」の保障について

①実施した主なプランと取組状況

【健康・体力の保持・向上】

幼児期から小学校低学年の子どもたちが、運動の楽しさを味わいながら運動能力を高めていく**運動と遊びのプログラム「しなのき わくわく運動遊び」**を開催しました。3年間で19回開催し、園児・児童871名、保護者や教職員等840名の参加があり、運動遊びへの理解促進と啓発を進めることができました。



また、長野市教育センターで設置する**学校体育・学校保健研究委員会**により、**全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析に基づく体力向上に向けた指導方法の改善、仲間づくりや人間関係づくりの視点を取り入れた授業改善**の提案を行いました。運動場所や設備を整備し、休み時間にも運動に親しめるようにする学校が少しずつ増加しています。

【地域貢献力の育成】

小学校高学年児童と中学生、高校生の有志による地域学習「**地域発 わくわくリーダーズながの**」を実施し、3年間で小学生延べ70名、中学生延べ27名、高校生延べ9名の参加がありました。職業体験、環境子どもサミット、子ども議会等へ参加し、**地域の魅力を再発見したり、地域への思いを高めたりすることができました**。また、NAGANO検定ジュニア実施への協力等、事業所等とも連携しながら、子どもたちが地域を知り地域の魅力を再発見する取組を支援しました。



【キャリア発達を促す基礎的・汎用的能力の育成】

企業関係者や有識者、学校関係者等によって組織する**キャリア教育支援懇談会**を年3回開催し、職場体験学習の参観や懇談等を通して、本市のキャリア教育のあり方について協議いただくとともに、**事業所との協力体制の構築、連携推進**にも努めてきました。長野市教育センターで**キャリア教育に関する研修講座**を毎年3講座開設し、キャリア教育の現状についての意見交換をし、各校での実践に生かすことができました。

【リテラシーの向上】

児童生徒や保護者を対象とした**情報処理推進機構（IPA）**による**情報モラル講座**を延べ36回開催しました。各学校においては、**メディアコーディネーター**による**授業支援**を3年間で延べ615件行い、授業におけるICTの日常的な活用につなげることができました。また、長野市教育センターでは、**教育の情報化にかかわる研修講座**を3年間で53講座開催し、教員の授業におけるICT活用力の向上、情報モラル教育推進を図るとともに、平成29年度には**プログラミング教育に関する研修講座**を2講座設定し、新学習指導要領の実施に向けた準備を進めてきました。

【グローバルな視野の育成】

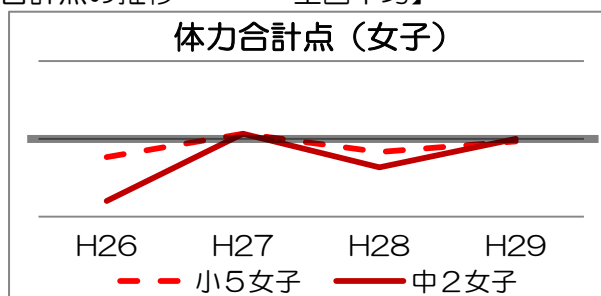
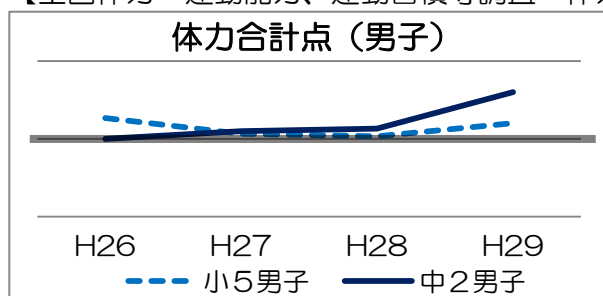
姉妹都市である**クリアウォーター市**、友好都市である**石家庄市**へ各中学校からの代表生徒を、3年間で延べ72名派遣し、現地でのホームステイや学校訪問等により**国際化社会に相応できる人材育成**を行いました。また、環境部と連携した**環境子どもサミット**への参加等の環境教育の推進により、**持続可能な社会づくり**についての理解促進を行いました。

②主な成果と課題

【健康・体力の保持・向上について】（成果：◎ 課題：●）

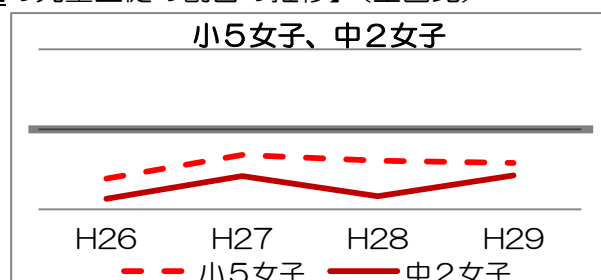
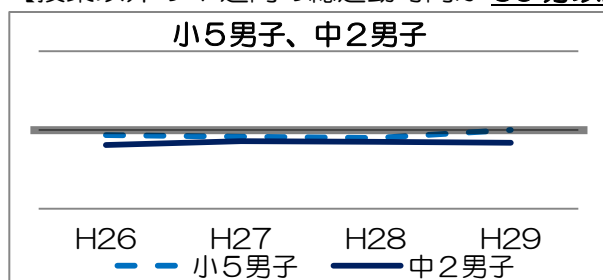
- ◎運動と遊びのプログラム普及により、低学年児童の運動への興味・関心を高めることができました。
- ◎独自の運動活動や運動施設の整備、研究委員会の提言を取り入れた授業改善の推進等により、児童生徒に一定の体力がついてきています。
- 授業以外の1週間の総運動時間が60分以上の児童生徒の更なる増加
- 遊びを通じた「運動好き」な児童生徒の更なる育成

【全国体力・運動能力、運動習慣等調査 体力合計点の推移 ——— 全国平均】

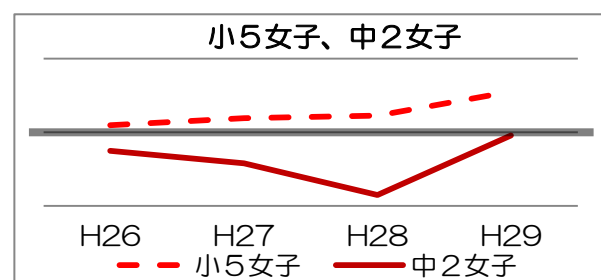
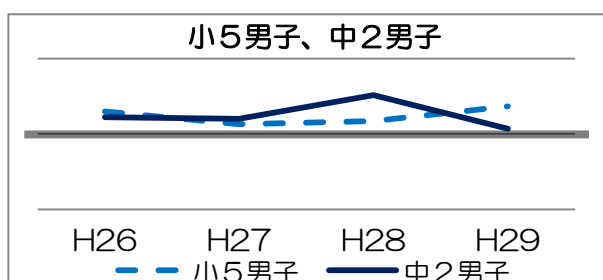


【全国体力・運動能力、運動習慣等調査 児童生徒質問紙の集計 ——— 全国平均】

【授業以外の1週間の総運動時間が60分以上の児童生徒の割合の推移】（全国比）



【「運動やスポーツをすることは好きか」に肯定的な回答をした児童生徒の割合の推移】（全国比）



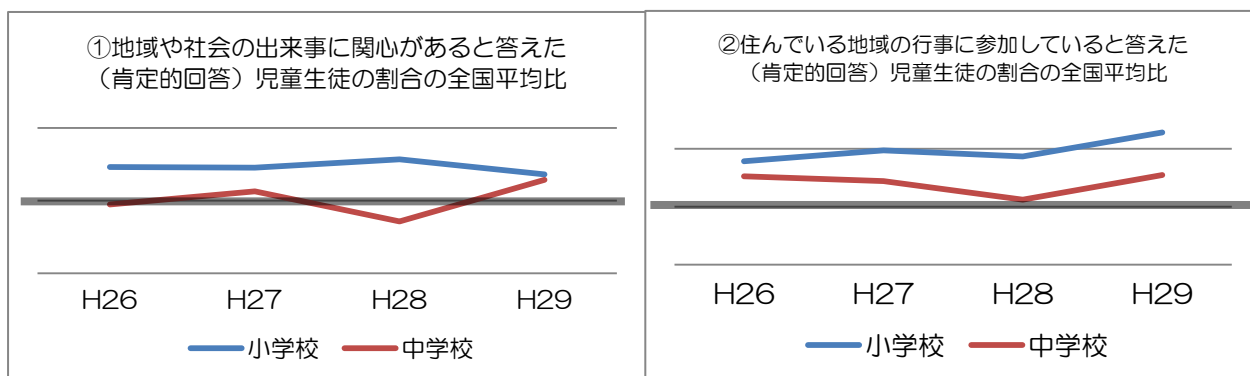
体力合計点については、男子は4年続けて全国平均以上になっており、上昇傾向にあります。女子は、小学校5学年はおよそ全国平均並みですが、中学校2学年は全国平均以下の年度が多い状況であり、長野市市教育センターが組織する学校体育・学校保健研究委員会による調査の分析に基づく授業改善をより充実させていく必要があります。

授業以外の1週間の総運動時間が60分以上である児童生徒が、小学校、中学校ともに全国平均を下回っており、児童生徒の運動離れが懸念されます。これまで行ってきた、幼児、低学年児童を対象とした運動と遊びのプログラム「わくわく運動遊び」による興味・関心の喚起、小学校独自の運動活動、運動施設の整備や、友との関わりや人間関係づくり等の人権教育の視点を取り入れた体育の授業改善による体力向上の取組を更に充実させていく必要があります。

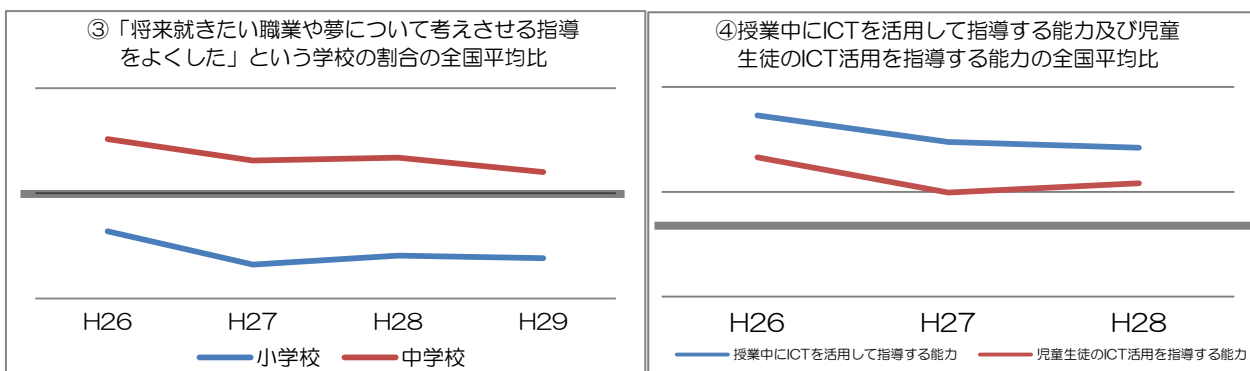
【地域貢献力、リテラシーについて】（成果：◎ 課題：●）

- ◎地域や社会の出来事に興味を持つ小学生、地域の行事へ参加する小・中学生が全国平均を上回り、高い水準で推移しています。
- ◎長野市教育センターの研修、ICT機器及び環境の整備等により、教職員自身が授業中にICTを活用して指導する能力は、全国より高い水準にあります。
- 児童生徒が夢や目標を持ち、自己の役割や生き方について考えていくキャリア教育の更なる充実
- 児童・生徒がICTを活用できるようにするための教職員の指導力向上

【地域や社会への関心と地域行事への参加についての状況の推移】 ——— 全国平均



【将来の職業や夢について考える指導状況の推移】 【ICT活用を指導する教職員の能力の推移】



（①②③ 全国学力・学習状況調査 ④学校における教育の情報化の実態等に関する調査）

地域や社会の出来事に関心があると答えた児童生徒の割合や地域の行事に参加している児童生徒の割合は、全国平均を上回る傾向にあります。背景には、地域で子どもを育てようという気運の高まり、生活科や総合的な学習の時間の充実など、様々なことが考えられますが、こうした児童生徒の関心の高まりを生かし、地域を題材とした学習を更に充実させることができるのではないかと考えます。



また、各学校における職業や将来の夢に関する学習は、中学校では高い水準で推移しているものの、小学校では低い水準で推移している状況です。昨年度から取り組み始めたJFA「夢の教室」等、小学校におけるキャリア教育の更なる充実が必要です。また、教職員の「児童生徒のICT活用を指導する能力」が低い状況にありますが、上記のキャリア教育や総合的な学習の時間等を中心とした探究的な学習を充実させる中でICT活用を進めたり、具体的な教育実践と関連付けたICT活用に関する研修を充実させたりする必要があります。

(3) 児童生徒の「学びの基盤」整備（安全・安心な教育環境）について

① 実施した主なプランと取組状況

【いじめのない安心な学校づくり】

長野市「いじめ防止等のための基本的な方針」を定め、いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題調査・解決チームを設置し、各学校と連携しながらいじめへの対応や未然防止に向けた取組を行いました。また、年4回のいじめの状況調査により、各校のいじめの問題の状況を把握してきました。更に、市立の全学校を人権教育研究指定校とし、研究授業や職員研修を毎年実施し、教職員、児童生徒の人権感覚の向上や日常的な人権教育の実践に向けた指導・助言を行いました。

【不登校の未然防止と不登校児童生徒へのきめ細かな支援】

「しなのき児童生徒意識アンケート」を年2回実施しました。アンケート結果を各校でコンピュータ処理することで、児童生徒個人や学級の間人関係に係る状況を素早く把握し、早期対応が可能となりました。また、8カ所の中間教室を設置し、2名の担当指導主事と10名の適応指導員により学校復帰に向けた支援を行いました。不登校等の支援のため市独自のスクールカウンセラー1名、スクールソーシャルワーカー2名を配置し、学校復帰と社会的自立に向けた支援を行いました。平成28年度は、中間教室等にスクールカウンセラーを17回派遣して心理面からの支援を行い、スクールソーシャルワーカーを37件の事案に派遣して、児童生徒や家庭が抱える課題解消につなげました。

【障害のある児童生徒への支援】

長野市特別支援教育「さんさんプラン」に基づく児童生徒支援を実施し、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行いました。市独自に配置する特別支援教育支援員は、平成26年度の97名から116名まで増員して児童生徒の学習支援にあたりました。また、特別支援教育巡回相談員を11名配置し、特別な配慮が必要な児童生徒の特性に応じた指導方法を担当教員へ助言しました。平成29年度からは、特別支援学校に籍がある児童生徒の「副学籍」を居住地の学校に置き、交流や共同学習を行う取組を始め、13名の児童生徒が副学籍による交流・共同学習を行っています。

【外国籍等児童生徒への日本語・生活指導の充実】

日本語教室加配教員8名、日本語指導巡回指導員等15名を配置し、外国籍等児童生徒への日本語指導・生活指導の充実を図りました。また、年3回の日本語指導運営協議会、年4回の日本語指導連絡協議会を開催し、外国籍等児童生徒への日本語指導・生活指導のあり方について協議を行い、指導改善に努めました。

【災害等に強い学校環境の整備と交通安全・防災教育の推進】

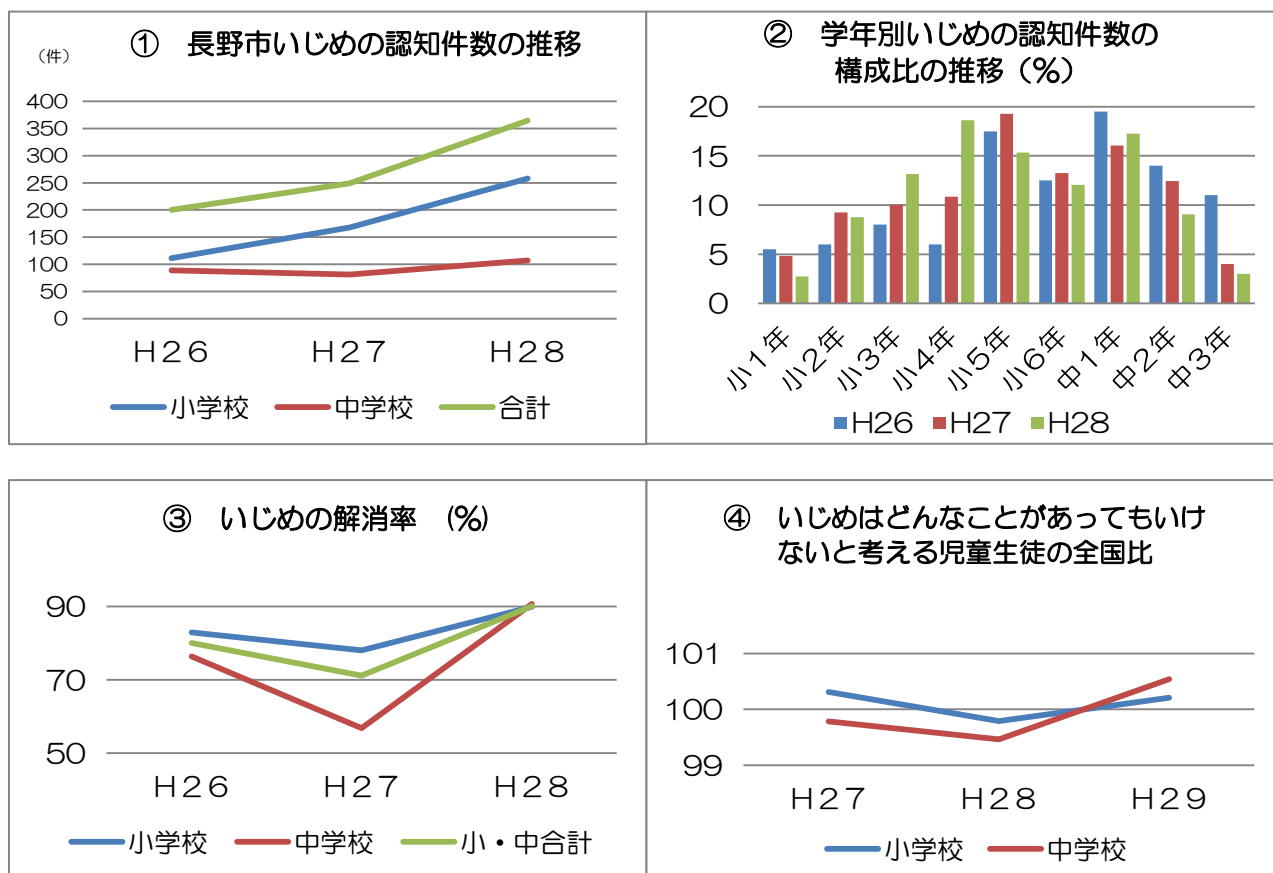
学校危機管理マニュアルと学校安全計画の見直し支援、危険箇所等安全マップの作成支援を行い、様々な災害や事故等を想定した見直しを進めるよう、各校への指導・支援を行いました。また、地域・市民生活部の実施する交通安全推進フェア、バスの乗り方教室に、多くの児童生徒、保護者、地域の方が参加し、交通安全への意識を高めることができました。

②主な成果と課題

【いじめ・不登校について】（成果：◎ 課題：●）

- ◎いじめ問題対策連絡協議会の設置及び各校に対するいじめの問題の早期発見への働きかけにより、いじめ認知件数が上昇し、早期解決につながっています。
- ◎年2回の「しなのき児童生徒意識アンケート」の実施、各校での即時集計・分析により、不登校への早期対応が可能となりました。
- 豊かな心を育む道德教育・人権教育の推進
- いじめの未然防止と早期発見、登校支援の充実

【いじめに関する状況について】

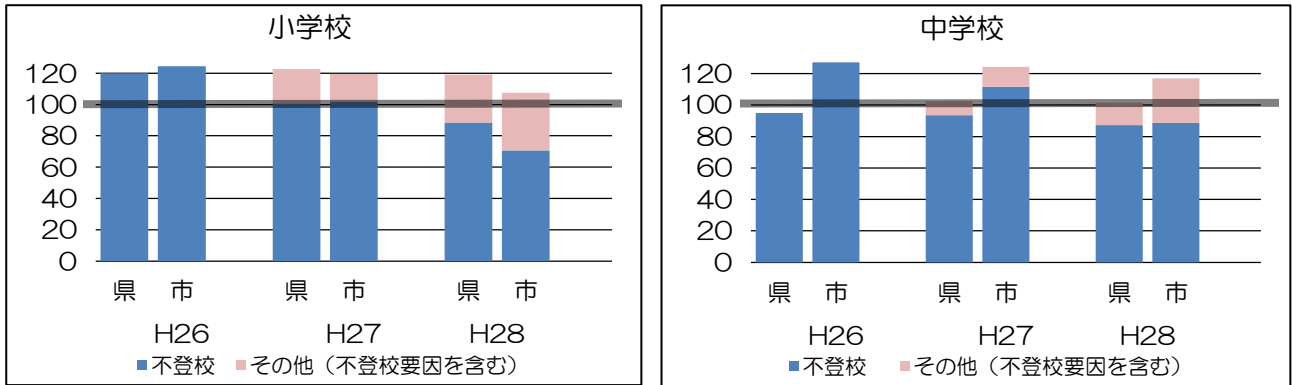


グラフ①, ②, ③ 「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」 グラフ④ 全国学調 児童生徒質問紙

各校がいじめの問題に積極的に取り組んだ結果、小・中学校の「いじめの認知件数」は増加傾向にあります。小学校4、5学年と中学校1学年で認知件数が高いのは、クラス替えや中学校への進学等、環境の変化により、児童生徒が不安定な状態にあるためではないかと推測されます。児童生徒のいじめの問題の認識については、全国と大きな差はありません。

いじめの解消率は高まる傾向にありますが、年度による差もあることから、引き続きアンケートや児童生徒との個別懇談等によるいじめの未然防止や早期発見、専門機関等と連携した早期対応を推進する必要があります。また、道德の学習や人権教育を更に充実させ、他者を思いやる気持ちをより高めていく必要があります。

【不登校児童生徒の状況】全国を100としたときの不登校児童生徒の在籍比

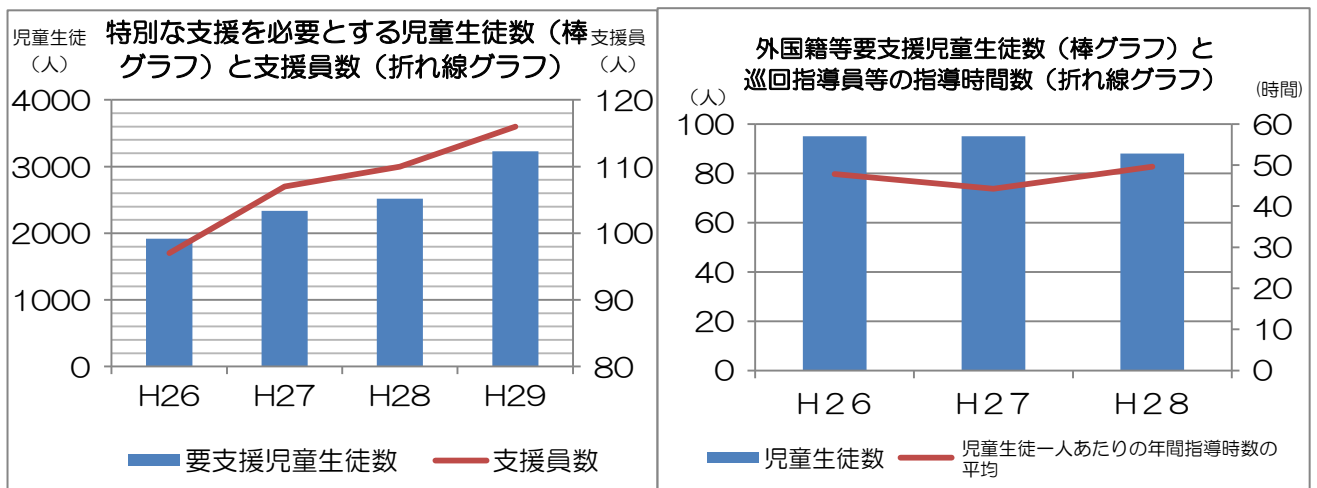


※「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」 ※H27から調査項目が変更

しなのき児童生徒意識アンケートにより、児童生徒の人間関係等に係る状況を各校で即時集計・分析することが可能となり、不登校の未然防止・早期対応ができるようになってきています。不登校児童生徒の在籍比は、全国と比べると小学校、中学校ともに減少傾向にあります。中学校から不登校生徒が増加する傾向が続いています。中学校入学による環境の変化に伴う不安等の解消のための更なる小中連携推進等の登校支援が必要です。

【障害のある児童生徒、外国籍等児童生徒への支援について】(成果：◎ 課題：●)

- ◎特別な支援を必要とする児童生徒の増加に対応して、支援員を増員することで、一人一人を大切にしたい教育環境の整備が進んでいます。
- 一人一人を大切にしたい教育環境の更なる充実（支援員等の確保や充実等）



発達障害等のある児童生徒の増加等に伴い、特別支援教育支援員を増員するとともに、外国籍の児童生徒に対しては巡回指導員等を配置するなど、一人一人を大切にしたい教育環境を充実させてきました。

しかし、学校現場からは、支援員や相談員など支援を求める声が増加しており、支援員や相談員等の確保や充実とともに、ユニバーサルデザインを意識した授業や環境整備など、一人一人を大切にしたい教育を更に推進する必要があります。

(4) 児童生徒の「学びをつなぐ」学校種間（幼保小中高）の連携について

①実施した主なプランと取組状況

【幼保小の連携推進】

こども未来部と連携し、「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」に沿った教育・保育を展開するとともに、地域ごとに分けた7つの支会ごとに幼保小連携会議（ブロック会議）を行い、**接続期（アプローチ・スタート）カリキュラムの作成、実践、見直し**をすることで幼児期から学童期への円滑な接続の実現を図りました。

【小中連携・一貫教育の推進】

活力ある学校づくり推進事業として12中学校区に8名の連携推進ディレクターを配置し、各中学校区の**小中連携や小小連携、小中一貫した教育の推進**とともに、学校と地域、家庭、事業所との連携を図りました（P14参照）。また、**活力ある学校づくり検討委員会**へ「少子化に対応して子どもにとって望ましい教育環境の在り方」についての諮問をし、議論を進めていただいています。平成30年6月に答申をいただくことになっています。

また、校長会では、長野県教育委員会、長野市教育委員会との共催で実施している**教育課程研究協議会**について、これまで小中別に実施していたものを、平成29年度からは、**小中合同で実施**することとし、系統性を意識した教育課程編成のあり方や授業のあり方についての理解を深めています。

【中高一貫教育の推進】

平成29年4月に**市立長野高校に併設・開校した市立長野中学校**では、「探究基礎」と「総合的な学習の時間」を活用し、地域に根ざしたグローバルな視野を持つための教育を推進しました。市立長野中学校を**本市の基幹校**と位置付け、**年22回の授業公開**を行うとともに、**中高一貫教育についての研修講座**（長野市教育センター）、**市立長野高校での異校種体験研修**（初任3年目の中学校教員）を実施し、中高一貫教育への理解促進を図りました。市立長野中学校の公開授業には、小・中の教員の他、一般市民の方も参観し、市立長野中学校の取組が全市に広がりつつあります。

市立長野中学校では、年間105時間の「探究基礎」と「総合的な学習の時間」による探究学習「翼プロジェクト」を行うことで、確かな学力と学ぶ意欲の育成を目指し、高校1年次の「産業社会と人間」と2年次の「課題探究プログラム」につなげています。



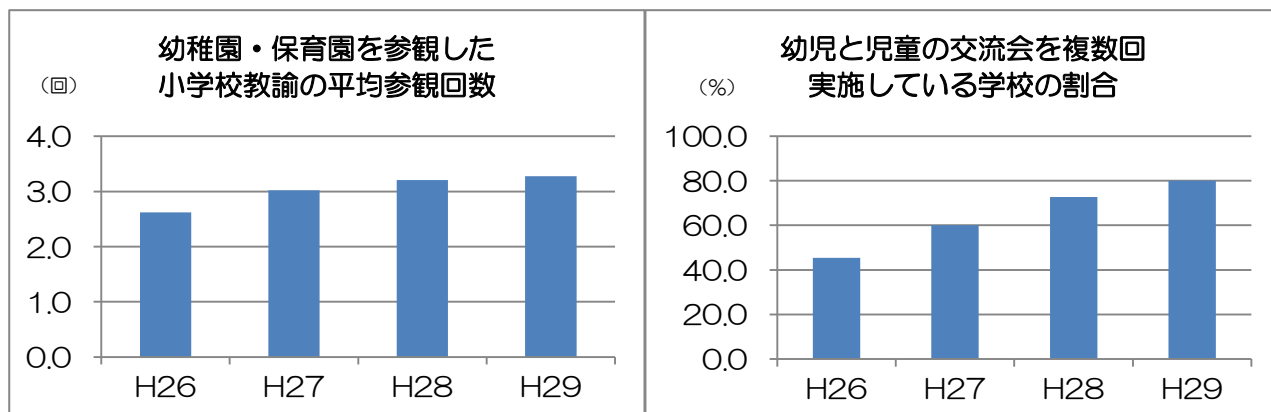
こうした中高一貫教育や探究学習についての研究や授業公開、教育センターの研修等により、異校種の指導ができる教員、幅の広い見識を持った教員の育成を図り、市内小・中学校の教育の充実に資することが、基幹校としての役割と考えています。

②主な成果と課題

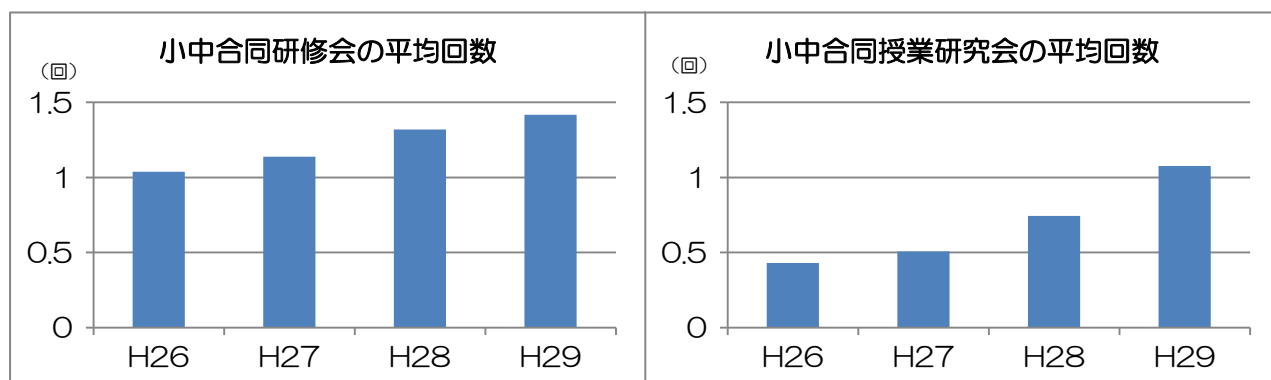
【学校種間連携について】（成果：◎ 課題：●）

- ◎市内の学校を地域ごとに分けた7つの支会で幼保小連携会議（ブロック会議）を開催し、接続期カリキュラムの策定・実践をすることで、幼保小の相互参観や合同研修などの実施回数の増加等、幼保小の連携が進みました。
- ◎市内の12中学校区に配置した8名の連携推進ディレクターによる小・中学校の連携推進、研究校による小中連携についての研究等により、小中合同研修会や授業研究会が増加するなど、小中連携が進みました。
- 小中の相互乗り入れ授業等、更なる学校間連携の推進
- 市立長野中学校における中高一貫教育の更なる実践と基幹校としての役割の更なる推進

【幼保小の連携状況】



【小中連携の状況】



平成26年度～平成29年度 学校経営概要より

幼保小連携会議等の取組により、小学校教諭が幼稚園・保育園・認定こども園等を参観する回数が増加し、児童と園児の交流会を複数回行う学校の割合が増加するなど、より円滑な接続に向けた情報の共有や相互理解が進んできています。

連携推進ディレクターの取組や校長会と連携した取組等により、小学校と中学校の合同研修会や合同の授業研究会が増加し、教科学習等における系統性、発達段階を踏まえた教育課程の検討が進んできていると考えられます。

(5) 児童生徒の「学びを支える」家庭・地域との連携について

①実施した主なプランと取組状況

【特色ある開かれた学校づくりへの支援】

コミュニティスクール推進セミナーを毎年開催し、**長野市コミュニティスクールを運営する運営委員会の設置を促進**することで、地域性を活かした持続可能な学校支援体制づくり、地域に開かれた学校づくりを進めました。コミュニティスクールの導入率は、平成26年度は小学校で45%、中学校で21%でしたが、平成29年度末には、市立の全小・中学校で導入されました。コミュニティスクールを運営する運営委員会の設置校には、運営費及び活動費として年額3万5千円と、年間8校に25万円の補助金を支給しています。

【家庭との連携による基本的な生活習慣の確立】

長野市PTA連合会と連携し、「**家庭での7つの取組**」についての周知と普及を図るとともに、懇談会を開催し、帰宅後の生活リズムづくり等、家庭教育の重要性について理解を求めました。

また、長野市PTA連合会、長野市校長会、長野市教育委員会が連携して、「**長野市大人と子どもの心得八か条**」の作成、周知、普及を図りました。

家庭生活との関連では、「**長野県中学生期のスポーツ活動指針**」に沿った部活動となるように、校長会と連携して中学生の部活動の見直しを進めました。

【少子・人口減少社会に向けた活力ある学校づくり】

活力ある学校づくり推進事業として12中学校区に8名の連携推進ディレクターを配置し、各中学校区の小中連携、小中一貫した教育の推進とともに、**学校と地域、家庭、事業所との連携を図りました**。また、活力ある学校づくり検討委員会へ「**少子化に対応して子どもにとって望ましい教育環境の在り方**」についての諮問をし、議論を進めていただいています。平成30年6月に答申をいただくことになっています。〔再掲〕

8名の連携推進ディレクターは、中学校区の小中連携、地域との連携を推進するための様々な取組を行っています。例えば、若穂、松代地区では、地区内の学校の様子をまとめた「**学校便り**」を作成し、地区に回覧しています。

また、合同行事や交流授業等を進めるなどの取組も行っています。中学校区ごとに行われる合同会議や合同研修会にも参加し、助言を行っています。

連携推進ディレクターが配置された中学校区では、小中連携や地域との連携が着実に進んできています。

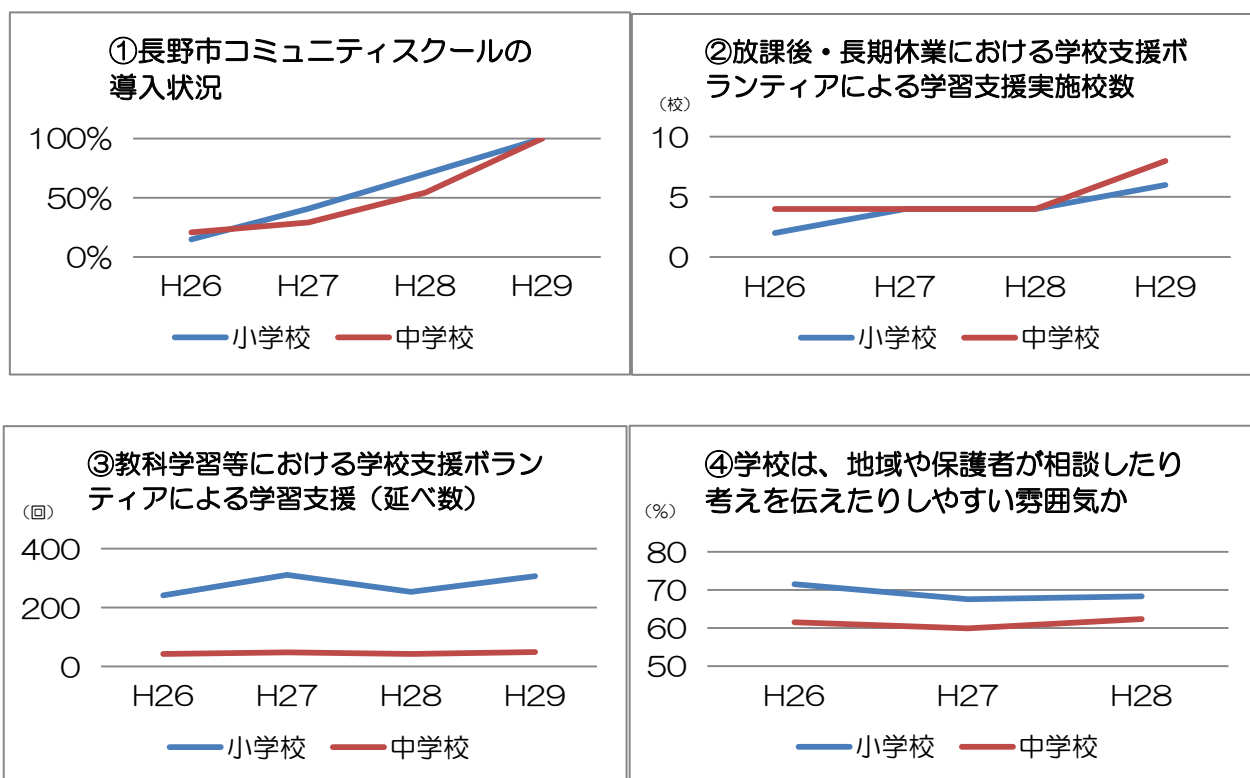


②主な成果と課題

【地域、家庭との連携について】（成果：◎ 課題：●）

- ◎長野市コミュニティスクール推進セミナーの開催、運営委員会設置校への補助金交付等の支援により、市内の全小・中学校でコミュニティスクールが導入され、地域や家庭との連携推進のための基盤整備が進んできています。
- ◎コミュニティスクール導入校の増加に伴い、学校支援ボランティアによる教科学習や放課後学習支援を行う学校が増加してきています。
- 中学校における教科学習等への学校支援ボランティアの活用
- 家庭における会話等、「家庭での7つの取組」の更なる普及推進
- 地域連携を更に進めるための事業所との連携推進

【地域連携の状況】



（①, ②, ③：学校経営概要より ④：長野市学校評価より）

長野市コミュニティスクールの導入率が上昇するにつれて、学校支援ボランティアによる学校支援が増えてきています。小学校では、教科学習や生活科、総合的な学習の時間の外部講師として学習支援をいただいている学校が多くなっていますが、中学校では少ない状況が続いています。今後は、放課後学習等を中心に、中学校における学校支援ボランティアによる支援の充実が必要と考えます。

また、小学校では、新学習指導要領で導入される外国語教育についても、外国語に堪能な方に支援を求めるなど、新たなニーズも予想されます。

2 しなのきプラン29の総括

しなのきプラン29では、0歳から18歳までの系統的な教育を柱に、幼保園、学校、地域、家庭、事業所、行政が連携し、5つの視点から「グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した18歳」の育成を目指してきました。

その主な成果と課題をまとめると次のようになります。

主な成果

- ◎教職員の力量の向上に向け、主体的な研修への意欲が高まったこと
- ◎小学校で指導改善のサイクルが定着したこと、中学校では全国学力・学習状況調査において全国平均との差が縮小したこと
- ◎運動と遊びのプログラムの普及により、低学年児童の運動への興味・関心を高めることができたこと
- ◎児童生徒の地域や社会への興味・関心が高い水準で推移していること
- ◎学校種間の連携や地域連携の基盤整備が進んだこと

主な課題

- 小・中学校における「知識及び技能」の定着、「思考力・判断力・表現力等」の向上
- 運動離れの解消、授業以外の総運動時間の増加
- いじめの未然防止と早期発見、登校支援の充実と豊かな心を育む道徳教育・人権教育の推進
- 一人一人を大切にされた教育環境の充実（支援員等の確保や充実等）
- 学校間連携や地域・家庭・事業所との連携推進

こうした検証を踏まえ、今後は、一定の成果を上げた「しなのきプラン29」の基本的な方向や施策を継承しつつも、「学力向上」、「体力向上」、「いじめや不登校を中心とした心の問題や一人一人を大切にされた教育環境の充実」、「学校、地域、家庭、事業所が連携して生きる力を育むこと」に、更に力を入れて取り組む必要があると考えます。

Ⅱ 第二期しなのきプランの基本方針

1 第二期しなのきプランの基本的な考え方

(1) 計画の位置付け

第二期しなのきプランは、第二次長野市教育振興基本計画の学校教育分野を中心とした実施計画として位置付けるもので、2018年度から2020年度までの3か年計画とします。

(2) 基本方針

しなのきプラン29の検証からは、プランの実施による様々な成果とともに、今後、更に力を入れて取り組むべきこととして、「小・中学校における知識及び技能の定着、思考力・判断力・表現力等の向上」、「運動離れの解消、総運動時間の増加」、「いじめの未然防止と早期発見、登校支援の充実と豊かな心を育む道徳教育や人権教育の推進」、「一人一人を大切にされた教育環境の充実」、「学校間連携や地域・家庭・事業所との連携推進」等が挙げられました。しなのきプラン29では、「生きる力」をつけるための学力保障という観点から様々な施策を展開してまいりましたので、これらの課題は、全て学力向上につながるものであると考えます。

しかしながら、「第二期しなのきプラン」の策定にあたり、上記の更に注力すべき課題を、第二次長野市教育振興基本計画に示した基本的方向「次世代を担う子どもたちの『生きる力』の育成」に改めて照らしたとき、学力保障という観点だけでなく、「『知・徳・体』をバランスよく伸ばし『生きる力』を育む」という観点から、課題を整理し直す必要があるのではないかと考えました。

そこで、「第二期しなのきプラン」では、しなのきプラン29の課題の整理を踏まえ、基本的な方向や施策は継承しながらも、学校間連携、地域・家庭・事業所との連携を更に推進する中で、「知・徳・体」をバランスよく伸ばし、子どもたちに「生きる力」を育むための取組を進めることとしました。

教育活動の中で、「知・徳・体」を総合的に関連付け、子どもたちに「生きる力」を身に付けさせるには、子どもの育ちを連続的に捉え、その発育段階に応じた適切な指導や一人一人に応じたきめ細かな支援を保護者や地域社会と共に実践できる力量を持った教職員の育成が必要です。

長野市教育委員会では、教職員の力量の向上を教育活動の基盤と考え、しなのきプラン29で定めた「グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した18歳の青年」を目指す人間像とし、学校、地域、家庭、事業所等の更なる連携の中で、「知・徳・体」をバランスよく伸ばし、子どもたちに「生きる力」を育むための支援を行ってまいります。

(3) 今後、更に力を入れて取り組むべきことの整理

教職員の力量の向上に関して

- 新学習指導要領への対応等、教育課題に応じた研究組織の編制
- 研修で身に付ける力量、指標についての研究と研修体系への反映・改善

学力に関して

- 「知識及び技能」の確実な定着、「思考力・判断力・表現力等」の更なる向上
- 積極的に人間関係を築く【絆力】、粘り強く課題に対応し、行動する【実践力】の向上
- 新学習指導要領を踏まえた教育活動の充実

いじめ・不登校等、心の問題や一人一人を大切にされた教育に関して

- 豊かな心を育む道徳教育・人権教育の推進
- いじめの未然防止と早期発見、登校支援の充実
- 一人一人を大切にされた教育環境の更なる充実（支援員等の確保や充実等）

体力に関して

- 授業以外の1週間の総運動時間が60分以上の児童生徒の更なる増加
- 遊びを通じた「運動好き」な児童生徒の更なる育成

学校間連携に関して

- 小中の相互乗り入れ授業等、更なる学校間連携の推進
- 市立長野中学校・長野高等学校の中高一貫した教育の実践と基幹校としての役割の推進

地域・家庭・事業所との連携に関して

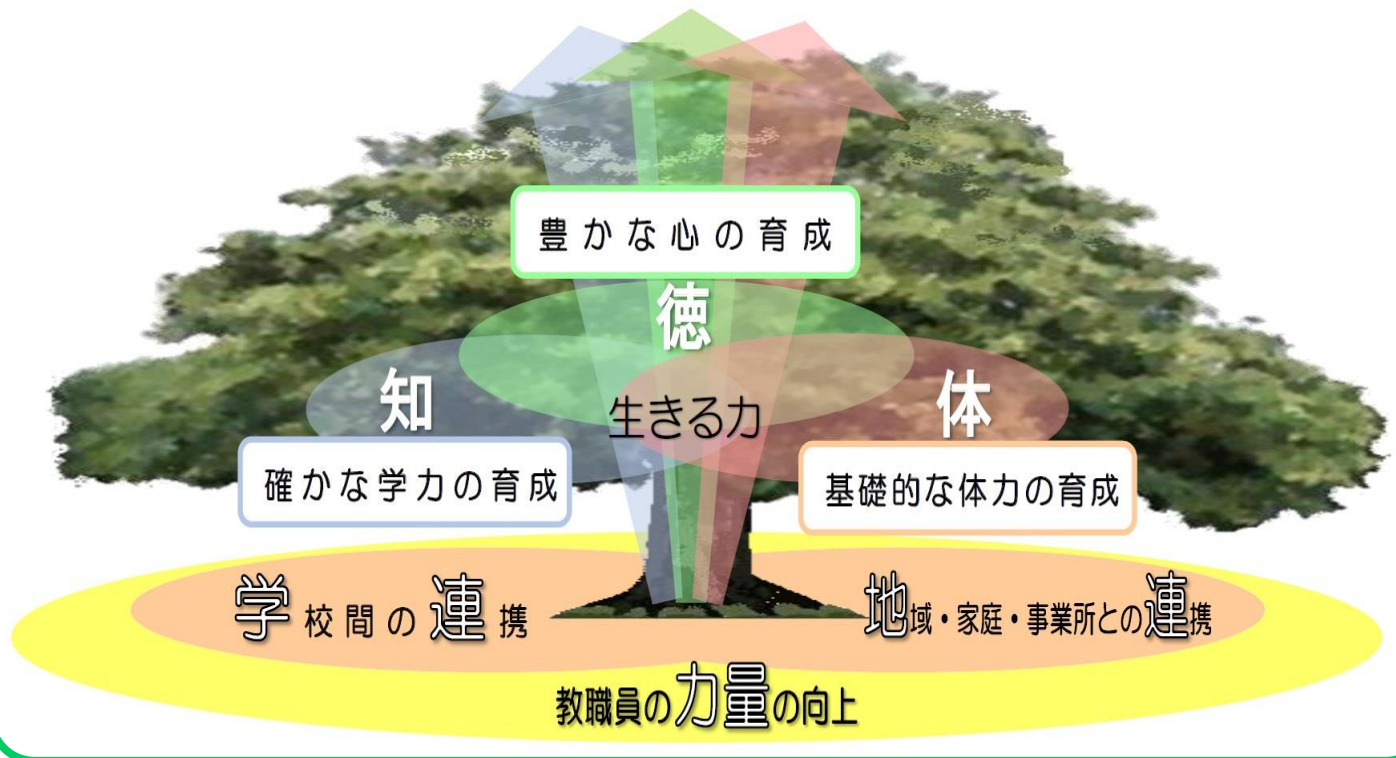
- 中学校における教科学習等への学校支援ボランティアの活用
- 家庭における会話等、「家庭での7つの取組」の更なる普及推進
- 地域連携を更に進めるための事業所との連携推進

上記の取り組むべきことの整理、第二次長野市教育振興基本計画、新学習指導要領を踏まえ、教職員の力量の向上を基盤とし、学校間連携、地域・家庭・事業所との連携の中で、「知・徳・体」をバランスよく伸ばし、子どもたちの「生きる力」の育成を目指します。

第二期しなのきプラン

目指す人間像

グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した18歳



2 第二期しなのきプランの全体イメージ（図）

< 3つの重点 >

知 確かな学力の育成

徳 豊かな心の育成

体 基礎的な体力の育成

外国語活動・外国語科への対応

- 拡大：ALT増員、外国語教育の研修
- ・小3、小4の外国語活動、小5、小6の外国語科に対応するため、ALTを増員
 - ・小学校教員を対象とした研修の拡大・充実

< 2つの連携 >

学連 学校間の連携

地連 地域・家庭・事業所との連携

調査を活用した指導改善①

- 継続：標準学力検査（NRT）の実施
- ・小4、小5、小6、中1で実施
- 拡大：中2でのNRTの実施
- ・中学校における指導改善のサイクルを構築
 - ・分析シート等を活用した各校での分析及び市教委での分析に基づく指導改善

< 1つの基盤 >

力量 教職員の力量の向上

幼保小連携

継続：接続期カリキュラムの実践

地域・家庭・事業所との連携

継続：家庭と連携した基本的な生活習慣の確立

新規：運動サーキットモデル事業における

地域・PTAとの協力した設備づくり

運動好きな

子どもの育成②

新規：運動サーキット

モデル事業

- ・モデル小学校による実践検証
- ・市内小学校への普及

運動好きな子どもの育成①

- 継続：わくわく運動遊び
- ・運動と遊びのプログラムの普及
 - ・運動好きな子どもの育成、教員等の啓発、授業への導入を促進

教職員の力量の向上

様々な教育課題に対応するための研修講座

グローバルな視野を持ちながら、
ローカルにたくましく生きる自立した18歳

調査を活用した指導改善②

継続：全国学力・学習状況調査の実施

- ・小6、中3で実施
- ・各校での分析及び市教委での分析に基づく指導改善



高校生



小6

小5

中1

中2

中3

中高連携

継続：市立長野中学校・長野高等学校における中高一貫教育の推進

- ・基幹校として授業公開を実施

地域・家庭・事業所との連携

継続：長野市コミュニティスクールの充実

継続：長野市キャリア教育支援懇談会の開催

小中連携

継続：学校間連携、地域連携推進への支援（連携推進ディレクター）

体力調査の分析に

基づく授業改善 継続

- ・長野市教育センターの学校体育・学校保健研究委員会による調査の分析と授業改善の提案

いじめの未然防止・早期対応、登校支援の充実

継続：しなのき児童生徒意識アンケートの実施

継続：市独自のスクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）の配置

一人一人を大切に
した教育環境の整備

継続：特別支援教育支援員等の配置

- ・一人一人の教育的ニーズに応じて、特別支援教育支援員や多様な言語に対応できる日本語指導協力者・日本語巡回指導員を確保・配置

新規：オリンピック・パラリンピック教育の推進

- ・市内小・中学校を東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校として登録し、障害者理解を中心とした人権教育を推進
- ・アスリートとの交流等を通じた児童生徒の運動への興味・関心の喚起

道徳教育・人権教育の充実

新規：道徳教育研究委員会による授業研究

- ・市教育センターで研究委員会を組織し、「考える道徳」「議論する道徳」の授業提案と市内各校への普及

継続：人権教育指定校研究

・市内全小・中学校を指定し、授業研究・研修を実施

新学習指導要領を踏まえた研修講座、学校現場のニーズに応える研修講座

Ⅲ 第二期しなのきプランの目標と具体的な取組

力量

1 教育活動の基盤となる教職員の力量の向上のために

【教職員の力量の向上に係る課題】

- 新学習指導要領への対応等、教育課題に応じた研究組織の編制
- 研修で身に付ける力量、指標についての研究と研修体系への反映・改善

【改善に向けた重点取組】

□の数字は、第二次長野市教育振興基本計画の施策番号を示します。

重点取組1 新学習指導要領に係る研修の充実と日常の授業での実践

- ・文部科学省等の講師による今日的な教育課題や、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりに係る研修の充実を図ります。 施策 1-1-1
- ・1時間の授業モデルの一つとして「しなのき授業スタンダード」(P23)を示し、指導主事による学校訪問支援と併せ、子どもの課題意識に基づいた授業を日常化する中で教師の指導力の向上を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげます。

施策 1-1-1

重点取組2 知・徳・体をバランスよく伸ばすための実践研究（研究委員会組織）

- ・「生きる力」を育むとともに、教職員の力量の向上に資することを目指し、長野市教育センターで組織するキャリア教育研究委員会、道徳教育研究委員会、学力向上研究委員会、学校体育・学校保健研究委員会による実践的研究と公開授業を行い、研究成果を各学校と共有することで、児童生徒の知・徳・体をバランスよく伸ばし、「生きる力」を育む、教職員の力量の向上を図ります。また、校内研修や自主研修を支援するため、公開授業の動画等の教材をポータルサイト上に整備します。

施策 1-1-1

重点取組3 研修体系の見直しと学び続ける教職員を支援する「研修のあゆみ」の活用

- ・各研修講座を教職員の力量、職歴に応じて体系的に整理・分類し、自分のキャリアステージに応じた研修講座を選択しやすくします。更に、各研修講座の目的や到達目標を受講者に示すことで、計画的なキャリアアップや自己の力量向上につなげやすくします。そのために「私の研修（研修のあゆみ）」を配布し、自分のキャリアと必要な研修をつなげ、活用できるように支援します。

施策 1-1-1

重点取組4 学校が「豊かな学びの場所」となるための「学校づくり」支援

本プランに示した様々な教育施策が成果を上げるためには、現場で子どもと向き合う教職員が「やりがい」を感じ、方向性を同じくして取り組むことが必要と考えます。その

ためには、教職員が子どもと向き合う時間を確保するとともに、それぞれの学校が主体性を持ち、子どもと教職員にとって「豊かな学びの場所」となるための「学校づくり」を推進することが重要です。

- 学校長や教頭等の管理職が強いリーダーシップを発揮し、学校組織マネジメントや全教職員とともに進めるカリキュラム・マネジメント、適切な学校運営ができるよう、管理職研修の充実を図ります。また、学校づくりの推進者として期待される40代、50代の教員を対象とした学校づくりに係る研修講座を新設します。 施策 1-1-1
- 教職員の力量向上には、長野市教育センターが主催する研修だけでなく、各校における日常的な職務を通じた研修（OJT：On the Job Training）を充実させ、学校が自校の教職員を育てていくことが重要です。各校のOJT充実のため、1時間の授業に対する支援だけでなく、1つの単元や複数回にわたる支援等、学校のニーズに応じた指導主事の派遣により学校を支援します。 施策 1-1-1
- 学校が「豊かな学びの場」となるためには、地域・家庭・事業所等と連携して学校づくりを進めることが重要です。そのため、教職員には地域・家庭・事業所等と連携して教育活動を展開する力が必要となります。地域連携についての長野市コミュニティスクール推進セミナーでの情報交換や、市教委から各校へ配信する「しなのき通信」による情報提供、長野市教育センターにおけるカリキュラム・マネジメントについて扱う研修等により、教職員の地域連携推進の力を高めるための支援をします。 施策 1-1-1 施策 2-1-3

地連

ICT

- 教職員が日々の授業や教育活動に注力するためには、学校における「働き方改革」を進める必要があります。校務支援システムの更新による更なる校務の効率化等、業務改善に向けた取組の推進とともに、県の「学校における働き方改革推進のための基本方針」を踏まえ、市教育委員会でも基本方針を策定し、教職員が「やりがい」を感じ、子どもと向き合う時間を十分確保できるように取り組みます。 施策 1-1-1

【目標・評価指標】

教職員の力量の向上のための研修講座の充実

評価指標	教職員研修の事後アンケート 講座の到達目標に基づく肯定的自己評価の割合（※）	
	現状（2017年度）	目標（2020年度）
	測定なし	80%

※ 2018年度から、講座ごとの目的・到達目標をあらかじめ受講者に明示することとし、これに連動して受講者が到達目標に基づいて自己評価できるようアンケートの設問を変更します。また、動画を利用した研修プログラム等の利用状況も指標として検討します。

日々の授業の基本となる「しなのき授業スタンダード」～深い学びの実現に向けて～

「しなのき授業スタンダード」とは、授業改善を図るために、学びに向かう力・人間性等の育成を意識した4つの活動を取り入れたもので、ユニバーサルデザインや人権教育、学級づくり、生徒指導などの視点を大切にしながら日常の授業モデルの一つです。

子どもの課題意識に基づいた授業を日常化の中で教師の指導力の向上を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげます。

大切にしたい 子どもの意識	活 動	教師の支援		
		授業づくりのポイント	ユニバーサル デザイン化の 視点	学級づくり 生徒指導 人権教育の視点
●●について 考えたい やってみたい こうすれば できそうだ	○「未来力」を 育む活動 課題解決のため の見通しをもつ	○課題設定 ・学習の目的を明確にし、共有する。 ・子どもとともに課題を設定する。 ・驚きや不思議さ、必要感等のある課題にする。	・1時間の進め 方の見通し の提示 ・見やすい板 書、図示等の 視覚化	・子どもの疑問、 驚きへの教師 の共感 ・友の不安、苦手 意識への子ど も同士の共感
自分の力で 考えよう やってみよう	○「自律力」を 育む活動 自分の考えをもつ	○個の学び ・一人で活動する時間を十分確保する。 ・既知の学習内容を活用できるように する。 ・教師の指示やヒントは最小限にする。 ・困っている子どもへの支援は、個別 に行う。	・活動の時間配 分が見て分 かる提示 ・1文1動詞の 指示 ・安心感のある 補助具の活 用	・根拠を明確に し、自分の考え に自信をもた せる教師の声 かけ ・個に応じたヒン トの提供
友だちの考えも 聞いてみよう みんなで 考えを深めよう	○「絆 力」を 育む活動 友の考えに触れ、 学びを深める	○友との学び ・小グループのコミュニケーション活動は、 活動の目的を明確にする。 ・考えを広げたり、深めたりするための 話し合いの方法を工夫する。 例：考え方の比較検討（共通点、相 違点、分類等）	・情報を整理・ 分析するた めのワーク シートの工 夫 ・考え方の発表 の視覚化	・「友の考えを聴 く」「友に伝え る」ための教師 の丁寧な指導 ・目的に応じて、 意見交換でき る場の設定
こういうことが わかった できた 次は●●について 考えたい やってみたい	○「実践力」を 育む活動 授業を振り返り、 まとめ、次 につなげる	○学びの実感 ・子どもが、「わかった」「できた」等 の達成感がもてるようにする。 ・学習内容や学習方法を振り返り、子 どもの言葉でまとめる。 ・定着、発展問題を行う時間を確保し、 新たな課題をもてる場を設定する。	・その子どもに 適した定着 ・発展問題 ・プリント類の 整理の時間 の確保（綴じ る、貼る等）	・友の良さを認め る場の設定 ・子どもの努力へ の教師の承認 ・授業の終了時刻 の厳守
1時間を通して	※思考を深める発問と指示を的確・端的に行い、「子どもの活動時間」を十分確保します。 ※日ごろから、学び合いができる人間関係構築に努め、失敗が許され、「わからない」と 言える、開かれた学習集団づくりを大切にします。 ※一時間の思考過程を振り返ることができる構造化された板書を行います。 ※ICT 機器を効果的に活用して児童生徒の学びを深めます。 ※家庭学習への見通しを大切にします。 ○ねらいを明確化し、流れのめりはりをつけ、ねらいの達成を見とどけます。(県教委の 3観点)			

2 知：確かな学力の育成のために

【長野市の学力観】

長野市では、学力を、次の3つに分類し、「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」だけでなく、「学びに向かう力・人間性等」も参考指標として、数値を基に分析することにしました。「学びに向かう力・人間性等」で長野市が大切にしたい主な資質・能力は、以下の4つの力（未来力、自律力、絆力、実践力）と考えます。

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	【長野市が大切にしたい資質・能力】 学びに向かう力・人間性等
測定方法	○全国学力・学習状況調査のA問題 ○標準学力検査（NRT）	○全国学力・学習状況調査のB問題	○全国学力・学習状況調査の質問紙調査

【長野市が大切にしたい主な資質・能力】 学びに向かう力・人間性等	
未来力	目標と見通しを持ち、努力を継続できる力
自律力	規範意識を持ち、自己をコントロールしながら、自己発揮する力
絆力	他者を尊重し、他者と協働して活動に取り組んだり、人間関係を築こうとしたりする力
実践力	獲得した知識及び技能、思考力・判断力・表現力を駆使して、粘り強く課題に対応し、課題解決に向けて行動する力

【確かな学力の育成に係る課題】

- 「知識及び技能」の確実な定着、「思考力・判断力・表現力等」の更なる向上
- 積極的に人間関係を築く【絆力】、粘り強く課題に対応し、行動する【実践力】の向上
- 新学習指導要領を踏まえた教育活動の充実

【改善に向けた重点取組】

の数字は、第二次長野市教育振興基本計画の施策番号を示します。

重点取組1 諸調査の分析に基づく「指導改善サイクル」の構築

- 中学校2学年において標準学力検査（NRT）を新たに実施し、中学校教員が客観的データに基づいて自らの指導を振り返り、指導改善に向けた具体的な取組計画を立案、実践します。この中で、中学校2学年までの「知識及び技能」の確実な定着を図るとともに、3学年に向けた指導改善の方向を明確にし、中学校における「指導改善サイクル」を構築することで、「知識及び技能」の確実な定着を図ります。また、小学校においても、4学年から実施しているNRTの分析結果を生かした指導改善を進め、基礎的な知識及び技能の定着を目指します。

施策 1-2-2

新たに実施

中学校 1 学年 (NRT)			中学校 2 学年 (NRT)			中学校 3 学年 (学調)	
4・5月	6～8月	9～3月	4・5月	6～8月	9～3月	4月	5月～
NRT 実施 結果通知	結果分析 指導方針 の立案	補完・補充 指導等 の実施	NRT 実施 結果通知	結果分析 指導方針 の立案	補完・補充 指導等 の実施	全国学力・ 学習状況調 査の実施	結果分析、 補充学習な どの実施
Check・Action		Do	Check・Action		Do	Check・Action	
Plan			Plan			Plan・Do	

重点取組2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教員研修等の充実

・【絆力】や【実践力】の向上には、話し合う活動と探究的な学習の充実、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現が必要です。そのためには、教師が「主体的・対話的で深い学び」について理解するとともに、その実現に向けた具体的な取組を学ぶ必要があります。そのため、長野市教育センターにおいて、文部科学省の調査官等による新学習指導要領を踏まえた研修を充実させます。また、長野市教育センターが組織する研究委員会による授業公開及び研究成果を市内全校へ提供し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践的研究を進めます。 【再掲】施策 1-1-1

地連

学連

・「主体的・対話的で深い学び」は、全ての教科・領域等で実現を目指すものであり、「カリキュラム・マネジメント」による教科横断的な教育課程編成等が重要となります。その際、生活科や総合的な学習の時間等における地域や実社会と結びついた学習活動が柱となることが考えられます。コミュニティスクールの充実や指導主事の学校訪問支援、市立長野中学校の「翼プロジェクト」や研究校等による実践研究の成果を各校へ広めることなどにより、各校の探究的な学習の充実に向けた取組を支援します。

施策 1-1-1 施策 1-2-3

重点取組3 外国語教育の充実

・新学習指導要領では、新たに小学校3、4学年で外国語活動が、小学校5、6学年で外国語科が始まります。2018年度から移行期間が始まり、先行実施も可能となります。長野市教育センターでは、外国語活動と外国語科の完全実施のための研修講座を開設し、小学校教職員を支援します。 施策 1-1-1

・現在配置しているALT（外国語指導助手）を増員することで、小学校での外国語活動や外国語科の授業で生きた英語にふれる機会を充実させるとともに、研修によるALTの力量の向上を図り、児童の「聞く」、「話す」力の伸長を図ります。 施策 1-2-2

- ・外国語活動や外国語科の授業を実施するには、授業時数の確保とともに、教育課程の編成を工夫する必要があります。2020年度の新学習指導要領の完全実施に向けて短時間学習（モジュール学習）等の研究を進めるとともに、効果的な実践事例の収集と各校への情報提供等の支援をします。 施策 1-2-2

学連

- ・外国語教育の充実にあたっては、小学校と中学校の学習が円滑に接続するよう、小中で連携していく必要があります。校長会と協力しながら、研究校による相互乗り入れ授業等の実践的研究を進め、その成果を市内各校へ還元します。

【目標・評価指標】(全国を100とする)

「知識及び技能」の確実な定着、「思考力・判断力・表現力等」の更なる向上

評価指標	全国学力・学習状況調査 国語A、B、算数・数学A、Bの全国平均比	
	現状（2017年度）	目標（2020年度）
小学校	国語A:102.0 国語B:101.6 算数A:101.7 算数B:102.0	現状を上回る
中学校	国語A:100.9 国語B:98.5 数学A:97.4 数学B:97.3	全ての教科で100以上

評価指標	全国学力・学習状況調査 正答率が40%以下の生徒の割合の全国平均比	
	現状（2017年度）	目標（2020年度）
小学校	91.3	現状を下回る
中学校	107.9	100以下

【絆力】、【実践力】の向上 新学習指導要領を踏まえた教育活動の充実

評価指標	全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙 小学校6学年 中学校3学年 「主体的な学び」、「対話的で深い学び」の実施に係る肯定的な回答の全国平均比	
	現状（2017年度）	目標（2020年度）
主体的な学び	小学校：101.2 中学校：101.2	現状を上回る
対話的で深い学び	小学校：96.6 中学校：96.1	100以上 100以上

3 徳：豊かな心の育成のために

【豊かな心の育成に係る課題】

- 豊かな心を育む道徳教育・人権教育の推進
- いじめの未然防止と早期発見、登校支援の充実
- 一人一人を大切にした教育環境の更なる充実（特別支援教育支援員等の確保や充実など）

【改善に向けた重点取組】

□の数字は、第二次長野市教育振興基本計画の施策番号を示します。

重点取組1 道徳教育・人権教育の充実

- ・長野市教育センターに、道徳教育研究委員会を新たに組織し、「考える道徳」、「議論する道徳」への質的な転換を図る実践的な研究を行います。公開授業、研究冊子の作成・配布により、研究内容を各校の実践に生かせるようにします。また、新たに採択された教科書を用いた実践事例や、指導の充実が求められている情報モラル教育教材を、市のポータルサイトに掲載し、いつでも活用できるようにすることで、年間35時間の道徳の授業の確実な実施を支援します。そして、道徳の授業で扱った教材について家人と話し合う機会を設けるなど、家庭と連携した道徳教育を推進します。 施策1-2-2
- ・長野市教育センターが実施する初任者研修、中堅教員研修等の指定研修に道徳教育に係る内容を位置付けるとともに、一般教員を対象とした希望研修において「考える道徳」、「議論する道徳」の実現に向けた内容を取り入れる等、道徳教育に係る教員研修の充実を図ります。 施策1-1-1
- ・市内全小・中学校を人権教育研究指定校とし、担当指導主事の学校訪問支援により人権教育の推進・充実を図ります。 施策1-2-2 施策1-4-1 施策3-2-3

重点取組2 いじめの未然防止と早期発見、登校支援の充実

- ・各校では、定期的に「いじめアンケート」を実施し、いじめの早期発見に努め、早期解決につなげます。 施策1-4-1
- ・市教育委員会では、年4回の「いじめの状況に関する調査」を実施し、各校の状況把握に努め、早期解決に向けた指導主事による学校支援を行います。 施策1-4-1
- ・いじめ防止対策推進法等に基づき、関係機関、団体の連携を図る「長野市いじめ問題対策連絡協議会」、いじめの重大事態等への対応のため専門的な見地から対処する「長野市いじめ問題調査・解決チーム」を設置します。また、学校だけで、

地連

いじめの問題の解決が困難な場合には、学校の要請に応じて「長野市いじめ問題等調査員（弁護士、心理の専門家等）」を派遣します。また、いじめの問題について地域と連携して取り組む仕組づくりについて研究を進めます。 施策 1-4-1

・「しなのき児童生徒意識アンケート」を小学校5・6学年、中学校1・2学年で実施し、個別支援の充実、学級づくり、不登校やいじめの防止のために大切な児童・生徒理解を促進します。また、アンケート結果を支援に結び付けるための方法等について、研究を進めます。 施策 1-4-1

地連

・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを派遣し、福祉・医療関係機関と連携した登校支援を行います。また、スクールカウンセラー等の早期からの支援会議への参加を学校へ働きかけ、早期解決、早期の学校復帰につなげます。 施策 1-4-1

・中間教室に担当指導主事と適応指導員を配置し、生活習慣の改善や学習支援を図り、不登校児童生徒の学校復帰を目指します。 施策 1-4-1

重点取組3 一人一人を大切にした教育環境の整備

・一人一人の教育的ニーズに応じて、特別支援教育支援員や多様な言語に対応できる日本語指導協力者・日本語巡回指導員を確保・配置するなど、一人でも多くの児童生徒の能力と可能性を伸ばせる教育環境整備に努めます。 施策 1-4-2

学連

・幼保小連携会議（7支会）を開催し、各校における幼保小の円滑な接続、支援情報の確実な引継ぎが行われるように支援します。 施策 1-2-4 施策 1-4-2

ICT

・特別支援学校と同等の配慮が必要な児童生徒に対してタブレット端末を整備し、一人一人の教育的ニーズに応じた学習活動に活用します。 施策 1-2-2

【目標・評価指標】

豊かな心を育む道德教育・人権教育の推進

評価指標	長野市「学校評価アンケート」 道德 「授業を受けてよかった」「やってよかった」等の肯定的回答の割合	
	現状（2017年度）	目標（2020年度）
	小学校：81.4% 中学校：79.9%	90%

いじめの未然防止と早期発見、登校支援の充実

評価指標	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査 不登校児童・生徒の学校復帰率	
	現状（2017年度）	目標（2020年度）
	小学校 46.7%（国 29.5%） 中学校 39.6%（国 27.9%）	国の不登校児童生徒の 学校復帰率の数値を上回る

一人一人を大切にした教育環境の整備にあたっては、「ユニバーサルデザインを意識した環境整備や授業を行ったか」等の観点から、各校において実践・評価を行ってまいります。

4 体：基礎的な体力の育成のために

【基礎的な体力の育成に係る課題】

- 授業以外の1週間の総運動時間が60分以上の児童生徒の更なる増加
- 遊びを通じた「運動好き」な児童生徒の更なる育成

【改善に向けた重点取組】

□の数字は、第二次長野市教育振興基本計画の施策番号を示します。

重点取組1 夢中になって運動に取り組むための機会提供と環境の整備

- ・幼児・低学年児童を対象とした運動と遊びのプログラム「しなのき わくわく運動遊び」を実施し、遊びを通じた運動への興味・関心の喚起、運動好きな子どもの育成を図ります。また、本プログラムについての教員・保護者の理解促進を図り、運動遊びの授業への導入推進や幼児期における運動の重要性についての啓発を図ります。 施策 1-2-2 〔関連〕 施策 2-1-1
- ・市内の小学校をサーキットモデル校とし、保護者、地域、事業所の協力を得ながら、校地内にサーキット設備を設置します。このサーキット設備を使った運動プログラムを開発し、体育の授業で活用したり、休み時間に遊んだりすることを通して、児童の体力向上と運動時間の確保、運動習慣の定着、運動好きな児童の育成を図ります。モデル校の実践内容は、ポータルサイト、しなのき通信、「長野市の教育」を通して市内各校へ配信し、運動サーキットの普及啓発を行います。 施策 1-2-2

地連

重点取組2 体力向上に向けた調査分析を生かした授業改善と運動活動の実施

- ・長野市教育センターが組織する学校体育・学校保健研究委員会において、全国体力・運動能力調査の結果分析を基に、小・中学校における授業改善や運動活動の方向性についての研究を進め、実践事例をまとめた「長野市の教育」を各校へ配付することで、児童生徒の体力・運動能力の向上につなげます。 施策 1-2-2

重点取組3 東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校としての取組

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校として、市内小・中学校全校を登録し、児童生徒がオリンピック・パラリンピック、スポーツの価値を学習する機会や、多様な国や文化に触れる機会、アスリートと交流できる機会等を設けることで、児童生徒の運動への興味・関心を高めます。 施策 1-2-2 〔関連〕 施策 4-2-1

体力向上に加え、保健給食課と連携し、食育の推進にも努めます。第三次長野市健康増進・食育推進計画「ながの健やかプラン 21」では、子どもの頃から心身ともに健康であるための食習慣を身に付け、生涯にわたり健康な食生活を送ることができることを目指しています。学校では、食育月間や食育の日の取組、「早寝早起き朝ごはん」や家族や仲間と楽しく食事をする事など、家庭と連携しながら食育を推進します。

【目標・評価指標】

授業以外の 1 週間の運動時間が 60 分以上の児童生徒の増加

評価指標	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 児童生徒質問紙 体育の授業以外の 1 週間の総運動時間が 60 分以上の児童生徒の全国平均比	
	現状 (2017 年度)	目標 (2020 年度)
	小5男子：100 中2男子：97.6 小5女子：93.7 中2女子：91.3	小5男子:100 以上 中2男子:100 以上 小5女子:95 以上 中2女子:95 以上

遊びを通じた「運動好き」な児童生徒の育成

評価指標	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 児童生徒質問紙 運動やスポーツをすることが好きと答える(肯定的回答)の児童生徒の全国平均比	
	現状 (2017 年度)	目標 (2020 年度)
	小5男子：101.8 中2男子：100.3 小5女子：103.3 中2女子：99.7	小5男子、中2男子、小5女子:現状以上 中2女子:100 以上

東京2020教育プログラム
「オリンピック・パラリンピック教育」

長野市は、1998年の冬季オリンピック・パラリンピック開催都市であり、一校一國運動発祥の地でもあります。そこで、市立小・中学校全79校を東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校として登録し、以下に示すような活動に取り組むことを通して、郷土愛、スポーツマンシップの精神・人権感覚、国際感覚を育みます。

◎オリンピック体験継承事業（スポーツ課と連携）

組織委員会が作成した長野冬季オリンピック・パラリンピックの記録映像を編集したDVDを小・中学校に配付し、オリンピック・パラリンピックの理念の理解や人権教育等に活用します。

◎学校給食を通じた異文化理解教育（保健給食課と連携）

一校一國運動の交流国を中心に、各国の料理を提供するとともに、その国の食文化や風習などについて「給食だより」に掲載することなどを通して、異文化への興味喚起、理解促進を図ります。

◎障害者スポーツの普及

ボッチャ等の障害者スポーツの教職員向け講習会を実施し、各校での障害者理解教育や交流会等に活用できるようにします。

5 学校間の連携を推進するために

【学校間連携に係る課題】

- 小中の相互乗り入れ授業等、更なる学校間連携の推進
- 市立長野中学校・長野高等学校の中高一貫した教育の実践と基幹校としての役割の推進

【改善に向けた重点取組】

□の数字は、第二次長野市教育振興基本計画の施策番号を示します。

重点取組1 学校間連携推進、地域との連携推進への支援

- ・小小連携、中中連携、小中連携や小中の一貫した教育及び地域との連携推進を、全中学校区に配置した連携推進ディレクターが支援します。

施策 1-2-4

施策 1-3-4

重点取組2 自立した18歳を育成するための「学校づくり」の推進

- ・市内の小・中学校を連携推進の研究校とし、複数の学年、複数の小学校による合同授業や中学校教員が小学校の外国語活動・英語を行う小中の相互乗り入れなど、小小、小中が連携した取組や地域と連携した取組、小中の一貫した教育に係る研究を推進します。その研究結果を市内各校へ配信、共有することで、各校における小中連携の推進を図ります。

施策 1-2-4

重点取組3 基幹校としての市立長野中学校における教育研究の推進

- ・平成29年4月に市立長野高校に併設され、開校した市立長野中学校では、中高一貫教育の推進を図ります。また、基幹校として、生徒の学ぶ意欲を高める探究学習「翼プロジェクト」や、様々な実践研究・公開授業等を行い、その成果を市内各校へ還元します。

施策 1-2-4

〔関連〕施策 1-2-2

【目標・評価指標】

幼保小の連携推進

評価指標	学校経営概要 幼児と児童の交流会を複数回行った小学校の割合	
	現状（2017年度）	目標（2020年度）
	80%	90%以上

小中の連携推進

評価指標	学校経営概要 小中合同研修会の平均回数	
	現状（2017年度）	目標（2020年度）
	1.4回	2回以上

6 地域・家庭・事業所との連携を推進するために

【地域・家庭・事業所との連携に係る課題】

- 中学校における教科学習等への学校支援ボランティアの活用
- 家庭における会話等、「家庭での7つの取組」の更なる普及推進
- 地域連携を更に進めるための事業所との連携推進

【改善に向けた重点取組】

□の数字は、第二次長野市教育振興基本計画の施策番号を示します。

重点取組1 コミュニティスクールの取組の充実

- ・ 学校、保護者、地域住民、事業所等が運営委員会を組織して、子どもの育ちについて共に話し合い、それぞれの役割を明らかにしながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「長野市コミュニティスクール」の機能を更に充実させ、地域と共にある学校づくりを進めます。

施策 1-2-2 施策 2-1-3

重点取組2 家庭と連携した基本的な生活習慣の確立

- ・ 長野市PTA連合会・長野市校長会・長野市教育委員会が共同で「長野市大人と子どもの心得八か条」、「インターネット利用啓発運動」を推進するなど、家庭教育力向上に向けた取組を支援します。また、家庭の教育力の向上を目指す研修会の開催を促すため、研修会を開催した小・中学校PTAに報奨金を交付します。

施策 2-1-1

重点取組3 キャリア教育支援懇談会等による事業所との連携推進

- ・ 企業関係者や有識者、学校関係者等によって組織するキャリア教育支援懇談会により、本市のキャリア教育のあり方について検討し、事業所との協力体制の構築、連携推進を図ります。

施策 1-2-4

重点取組4 少子・人口減少社会に向けた活力ある学校づくりの推進

- ・ 少子化に対応して子どもたちにとって望ましい教育環境の在り方について審議している「活力ある学校づくり検討委員会」の答申を踏まえ、活力ある学校づくりのための具体的な取組等を検討します。

施策 1-3-4

【目標・評価指標】

地域、家庭、事業所との連携

評価指標	長野市学校評価 保護者への質問項目「学校は、地域の方を講師とするなど学習支援の取組を行っていると思うか」への肯定的な回答の割合	
	現状（2016年度）	目標（2020年度）
	71.6%	80%以上
評価指標	長野市学校評価 保護者への質問項目「学校は、地域の方や保護者の方が相談したり考えを伝えたりしやすい雰囲気になっているか」への肯定的な回答の割合	
	現状（2016年度）	目標（2020年度）
	66.5%	70%以上

家庭の7つの取組

全国学力・学習状況調査の正答率と生活習慣との関係も踏まえ、以下の項目を「家庭7つの取組」とし、啓発を行ってまいります。また、健やかな心と体を育むためにも、「家庭での基本的な生活習慣の確立」「家庭や地域でのコミュニケーションの充実」が大切です。家庭の状況に合わせて、できることから始めていくことを提案します。

- 1 毎日、朝食を家で食べさせましょう
- 2 規則正しい生活をさせましょう
- 3 ゲームや携帯電話、スマートフォンの時間のルールを決めましょう
- 4 学校での出来事について、話を聞きましょう
- 5 できるだけ、授業参観や運動会などの学校行事に行きましょう
- 6 ニュースに関心を持たせましょう
- 7 よいところを、たくさん見つけ、どんどんほめましょう

事業所との連携推進

少子・人口減少社会の進行、予測困難な社会の到来が指摘されているこれからの時代において、学校、地域、家庭が、それぞれの役割を認識し、地域に開かれた学校づくりを連携しながら進めることが重要です。

保護者の勤務先である事業所のご理解・ご協力を得るために、PTAを通じた依頼や、事業所の諸会合等における依頼等をしてまいります。

ご理解・ご協力をいただきたいこと

○保護者の参観日や学校行事等への参加を

保護者や地域の皆様と学校とが、育てたい子どもの姿を共有し、それぞれの役割から取り組むことを共通理解するためには、学校が開催する参観日や運動会等の学校行事、各PTA活動等へ参加いただくことが重要となります。

○家庭で親子が過ごせる時間を

一人一人の子どもが、それぞれの発達段階に応じて健全に育っていくためには、基本的な生活習慣の定着や会話を通じた子どもの様子の把握と対応等、日々の家庭における見守りや支援が大切です。

※総合的な学習の時間等における探究的な学習や、キャリア教育等につきましても、地域の事業所のご協力をいただいております。今後も引き続き、ご理解・ご協力をお願いいたします。

※事業所との連携推進にあたっては、連携推進のための会合の実施状況や、事業所への直接依頼の状況等を数値化し、推進状況の評価をしてまいります。

7 取組一覧

(1) 主に教育内容にかかわるもの

第二次長野市教育振興基本計画		取組・事業		
基本施策1-1 子どもたちの「生きる力」を育成する教職員の力量の向上	施策 1-1-1 教職員研修の充実	指導主事の派遣による学校訪問支援	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的指導力から教育課程編成力まで、キャリアステージに応じて求められる力を養うための経年研修 学校運営の充実に向けた管理職研修 今日的な教育課題や多様なニーズに対応した研修 新学習指導要領改訂に向けて、文部科学省等からの講師に学ぶ研修 基幹校である市立長野中学校・市立長野高校における異校種研修等 免許状更新講習を兼ねた研修講座の開設 授業等で活用するための問題作成研修の充実 	
			授業支援	単発派遣型（授業＋授業研究会 初任研・キャリアアップ研修ⅠⅡも含む）
			授業支援	複数主事派遣型① （教科指導＋特別支援教育、人権教育、キャリア教育、ICT活用）
			授業支援	複数主事派遣型②（複数教科一斉）
			授業支援	短期継続派遣型（学力分析＋教材開発＋指導案作成＋授業＋授業研究会 単元を通じた支援など 期間：1～2ヶ月）
			授業支援	通年派遣型（1年間継続の校内研究、教育課程研究、教科会）
			授業支援	学校連携派遣型 （小中・小小連携・中学校区や支会単位の授業＋授業研究会等）
			授業支援	学校ニーズ対応型（校内研修との組合せ等、学校のニーズに対応）
			校内研修支援	<ul style="list-style-type: none"> 各種調査の分析研修、学力向上研修 各種教育研修（学校づくり、キャリア教育、特別支援教育、情報教育、学級づくり、人権教育等）
			その他	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導型授業支援
業務改善 子どもと向き合う時間の確保のため			<ul style="list-style-type: none"> 長野市教育センター教育研究委員会の設置 	
			<ul style="list-style-type: none"> 信州大学との連携協定による取組（教職員研修開発プログラム、講座への協力等） 	
			<ul style="list-style-type: none"> 各種調査の精選と簡素化 	
			<ul style="list-style-type: none"> 作品募集、行事参加依頼等の精選 	
			<ul style="list-style-type: none"> 校務支援システムの活用による業務の省力化 	
			<ul style="list-style-type: none"> 学校（教員用）ポータルサイトの充実（様式集、教材等の掲載） 	

基本施策1-2 乳幼児期からの段階に応じた教育の充実	施策 1-2-1	・「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」に沿った教育・保育の展開（こども未来部との連携） ・幼保小が連携して取り組む「運動と遊びのプログラム」の普及推進 ・幼保小連携会議の実施（7支会）（こども未来部との連携） 接続期（アプローチ・スタート）カリキュラムの実践と見直し 幼保からの支援情報の確実な引継ぎ（こども未来部との連携） ・幼保小中高のつながりを意識したキャリア教育カリキュラムの実践研究の推進		
	施策 1-2-2	小・中学校教育の充実	・全国学力・学習状況調査の実施 小学校6年 中学校3年〔国、算・数、（理）（英）質問紙〕 ・経年分析調査 ・標準学力検査（NRT）の実施 小学校4・5・6年（国、社、算、理）中学校1・2年（国、社、数、理、英） ・学力向上担当者研修の実施 ・運動と遊びのプログラムの普及推進 ・教育センター「学校体育・学校保健研究委員会」による体力向上・学校保健の研究推進（全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析） ・運動サーキットの普及・啓発 ・オリンピック・パラリンピック教育の推進による運動への興味・関心の喚起 ・教育情報化推進本部会議 ・ICT 機器の整備とICT を活用した授業づくりの研究 ・タブレット端末の有効活用（集中管理と貸出） ・情報モラル教育の推進（授業支援、情報処理推進機構 IPA による情報モラル講座の実施、講演会への協力、実態調査の実施、教職員研修会の開催等） ・メディアコーディネーターによる授業支援 ・ばそこん119番による機器の保守と操作支援 ・長野市立図書館基本計画の推進 ・学校図書館図書標準の達成 ・学校図書館法改正に伴う司書教諭・学校司書の研修 ・長野市コミュニティスクール事業の推進 ～子どもの成長と豊かな学びを地域とともに支える仕組み～ ・環境教育の推進 環境こどもサミット等への参加（環境部との連携） ・学習チューターによる学習支援	
			施策 1-2-3	・市立長野高校における課題探究学習・キャリア教育の充実（1年次「産業社会と人間」2年次の「課題探究プログラム」） ・市立長野高校における国際感覚と国際理解の醸成のための海外派遣 ・市立長野高校における信州大学等の高等教育機関と連携した教育活動の実施
			施策 1-2-4	・幼保小中高のつながりを意識したキャリア教育カリキュラムの実践研究の推進〔再掲〕 ・幼保小連携会議の実施（7支会）（こども未来部との連携） 接続期（アプローチ・スタート）カリキュラムの実践と見直し 幼保からの支援情報の確実な引継ぎ（こども未来部との連携）〔再掲〕

	幼・保・小・中・高の連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育支援懇談会の開催 ・長野市キャリア教育ガイドラインの更新・周知 ・職場体験学習のための体験受入協力事業所紹介と情報の共有（おしごとながの） ・市立長野高校へのキャリアコンサルタント派遣 ・出前産業講座実施事業（商工観光部との連携） ・「赤ちゃんだっこ」事業の実施 ・「心のプロジェクト 夢の教室事業」の実施 ・小学校高学年と中学生、高校生の有志による「地域発リーダーズながの」の実施
基本施策1-3 安心・安全な教育環境の整備	施策 1-3-1 <small>安心・安全な学校施設の整備</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校危機管理マニュアルの見直し支援 ・学校安全計画の見直し支援 ・危険箇所等安全マップの作成支援
	施策 1-3-3 <small>日常の安心・安全の向上</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校見守り隊との連携による児童生徒の登下校安全確保 ・交通安全推進フェアの開催（地域・市民生活部との連携） ・バスの乗り方教室の開催（企画政策部との連携） ・長野市学校安全・安心ネットによるメール配信
	施策 1-3-4 <small>少子・人口減少社会に合わせた学校づくりの推進</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域発 活力ある学校づくり推進事業 ・少子化に対応した子どもにとって望ましい教育環境の具体的内容の検討 ・自立した18才を育成するための「学校づくり」事業
	基本施策1-4 <small>一人一人を大切に する教育の推進</small>	施策 1-4-1 <small>個々の実態に応じた相談体制の充実</small>

		<ul style="list-style-type: none"> ・長野市「いじめ防止等のための基本的な方針」を基にした対応（いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題調査・解決チーム、いじめ問題等調査員の設置と連携した対応） ・人権教育研究指定校（全校）による研究推進 ・いじめの状況調査 ・いじめ防止のための研修実施 ・人権教育を柱としたオリンピック・パラリンピック教育の推進
	施策 1-4-2 特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「さんさんプラン」の実施 ・教育支援委員会、就学相談担当指導主事による就学相談体制の充実 ・支援員、相談員の配置 特別支援教育支援員⇒児童生徒の学習を支援 特別支援教育巡回相談員⇒障害のある児童生徒に適した指導方法を担当教員へ助言 ・幼保からの支援情報の確実な引継ぎ ・副学籍による交流及び共同学習 ・長野市特別支援教育あり方研究会 ・発達支援あんしんネットワーク事業
	施策 1-4-3 社会的援助を必要とする子どもへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・（市）スクールソーシャルワーカーの配置〔再掲〕 ・（市）スクールカウンセラーの配置〔再掲〕
連携・協働による教育力の向上	基本施策2-1-1 家庭の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市 PTA 連合会、事業所との連携による、「長野市大人と子どもの心得八か条」の啓発、インターネット利用啓発運動の実施 ・長野市 PTA 連合会との懇談会の開催 ・「しなのきプラン」（家庭での7つの取組）の普及推進 ・中学生の部活動の見直し（「長野県中学生期のスポーツ活動指針」の確実な実施）を通じた家庭生活の改善
	施策 2-1-3 家庭・地域・学校の連携・協働の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市コミュニティスクール事業の推進 ～子どもの成長と豊かな学びを地域とともに支える仕組み～〔再掲〕 ・地域の魅力リーフレットの作成配布（市長部局との連携） ・NAGANO 検定ジュニアの実施への協力 ・児童用の市統計資料作成への協力・啓発（企画政策部との連携） ・小学校高学年と中学生、高校生の有志による「地域発リーダーズながの」の実施〔再掲〕
基本施策2-2 地域が子どもを育ちを支える環境の充実	施策 2-2-2 少子・人口減少社会に合わせた生活力ある学校づくりの推進〔再掲〕	<ul style="list-style-type: none"> ・地域発 活力ある学校づくり推進事業〔再掲〕 ・少子化に対応して子どもにとって望ましい教育環境の具体的内容の検討〔再掲〕 ・自立した18才を育成するための「学校づくり」事業〔再掲〕

豊かな生活につながる生涯学習の推進	基本施策3-2 人権尊重・男女共同参画の推進	3-2-3	<ul style="list-style-type: none"> 長野市「いじめ防止等のための基本的な方針」を基にした対応（いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題調査・解決チーム、いじめ問題等調査員の設置と連携した対応）〔再掲〕 人権教育研究指定校（全校）による研究推進〔再掲〕 いじめの状況調査〔再掲〕 いじめ防止のための研修実施〔再掲〕 副学籍による交流及び共同学習〔再掲〕
		4-1-1	<ul style="list-style-type: none"> 街角に芸術と音楽があるまちづくりの推進 長野市芸術館の子ども利用の促進 「長野市子ども文化芸術賞」を設け、子どもたちの文化芸術活動を支援（文化スポーツ振興部との連携）
		4-2-1	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹都市（クリアウォーター市）、友好都市（石家庄市）派遣事業（交換学生、交換教師の相互派遣） 一校一國運動支援事業（観光振興課 インバウンド・国際室との連携）
		4-2-2	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育推進事業（ALT 配置） 日本語教室加配教員による支援体制の推進 日本語指導巡回指導員等の配置 日本語指導運営協議会の開催 連絡協議会の企画運営 日本語指導連絡協議会の開催 長野市外国籍等児童生徒学習交流会の開催（企画政策部との連携）
			<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生の推進
多彩な文化芸術環境の構築	基本施策4-1		
基本施策4-2 国際交流・多文化共生の推進	国際交流の推進	4-2-1	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹都市（クリアウォーター市）、友好都市（石家庄市）派遣事業（交換学生、交換教師の相互派遣） 一校一國運動支援事業（観光振興課 インバウンド・国際室との連携）
		4-2-2	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育推進事業（ALT 配置） 日本語教室加配教員による支援体制の推進 日本語指導巡回指導員等の配置 日本語指導運営協議会の開催 連絡協議会の企画運営 日本語指導連絡協議会の開催 長野市外国籍等児童生徒学習交流会の開催（企画政策部との連携）
			<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生の推進

(2) 補助金等の支援（主なもの）

<ul style="list-style-type: none"> 中学校総合体育競技大会出場補助金
<ul style="list-style-type: none"> 通学援助（路線バス、スクールバス、スクールタクシー、自転車等）
<ul style="list-style-type: none"> 学校マイプラン事業（特色ある学校づくりに対する財政支援）
<ul style="list-style-type: none"> コミュニティスクール運営委員会補助金（学校運営委員会の運営費等に対する財政支援）
<ul style="list-style-type: none"> 芸術鑑賞音楽会、合同音楽会、連合音楽会、吹奏楽祭、学童書道大会への支援・補助

ほか

【資料】

資料1 長野市乳幼児期の教育・保育の指針（概要）



1 「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」より

（1）指針の策定の趣旨

生涯にわたる人格形成の基礎を培うとともに、「学びの入口」としても重要な乳幼児期の教育・保育について、就学期への連続性・一貫性という視点も踏まえながら、長野市教育の基本理念である「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」につながる、具体的な基本指針等を新たに策定するものです。

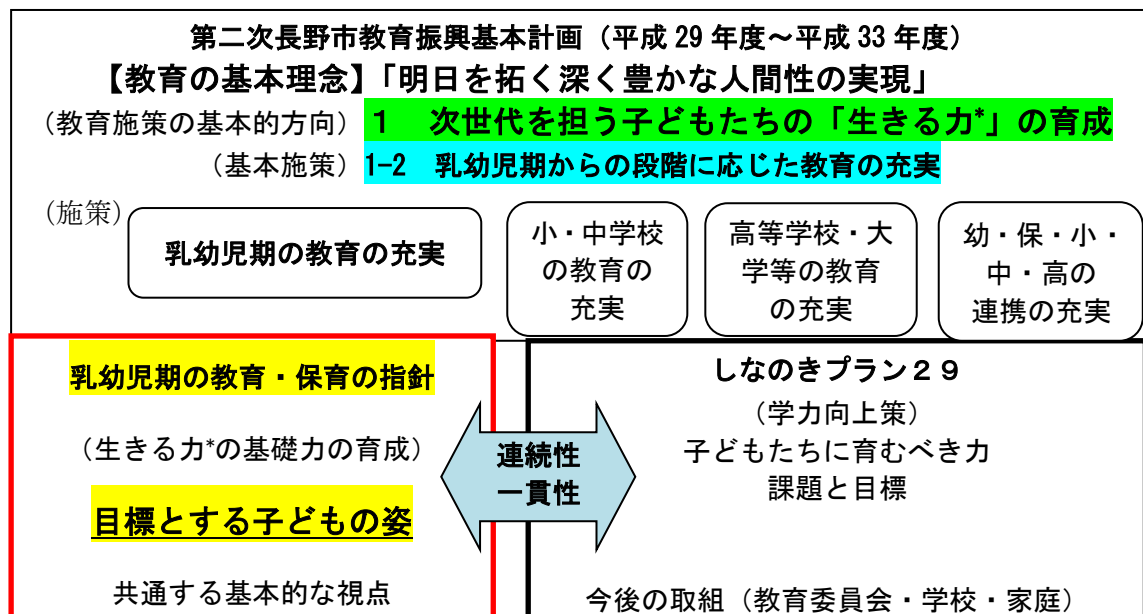
このことにより、家庭、地域社会、保育所・幼稚園・認定こども園等の教育・保育施設及び市が共通認識・共通目標のもとで、乳幼児期の教育・保育を推進することができ、その後の学童期・青年期の伸びやかな発達・成長につながる礎を着実に築くことを目指すものです。

（2）指針の位置付け

長野市では教育振興のための施策に関する基本的な計画として、「第二次長野市教育振興基本計画」を策定し、長野市の教育が目指す姿とそのための教育施策の基本的方針及び講ずべき施策を明らかにするとともに、乳幼児期の教育・保育の重要性を踏まえて、今後5年間に取り組む基本施策として「乳幼児期からの段階に応じた教育の充実」を定め、そこに繋がる施策として「乳幼児期の教育の充実」を定めています。

「学びの入口」としても重要な乳幼児期の教育・保育の在り方について、就学期への連続性・一貫性という視点等も含め、この基本施策等につながる具体的な目標や取組を明らかにするものとして「乳幼児期の教育・保育の指針」を策定します。

なお、教育委員会では、子ども達の学びを7歳【小学校】から18歳【高校卒業】まで切れ目なく支えるため「しなのきプラン29」を平成27年度に策定しています。



(3) 目標とする子どもの姿

本市の豊かな自然と文化を生かした安全な環境の中、子ども達が「遊び」や「生活」を通して、小学校からその先の「生きる力」の基礎を培うことによって実現する、目標とする子どもの姿として

かがやく笑顔で げんきに遊ぶ しなのきッズ

を定めます。

この目標が表す子どもの姿

かがやく笑顔

自己肯定感、情緒の安定、自信を獲得した姿

げんきに遊ぶ

健康、基礎体力、運動能力を獲得し、遊びを通して友達関係や人間関係を築く姿

しなのきッズ

「知・徳・体」のバランスの良い発達をイメージした「しなのき」が、大きく育っていくための根（意欲・態度）をしっかりと張り巡らす姿



(4) しなのきッズに育まれる力

しなのきプラン29

グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した18歳

かがやく笑顔で げんきに遊ぶ しなのきッズ

しなのきッズに育まれる力

自分で健やかな生活をつくろう。 (自律力)

- ・よく食べ、よく寝て、規則正しく生活する。
- ・自分でできることは、自分でやろうとする。
- ・きまりを守る。
- ・時間や状況に合わせて行動する。

感じて、考えて、チャレンジしよう。 (実践力)

- ・好奇心や探究心いっぱいに関わり、「やりたいこと」に夢中になる。
- ・自分の思いに向かって試行錯誤しながら最後までやり通す。

自信を持ち、自分を好きになろう。 (未来力)

- ・満足感や達成感を得たり認められた嬉しさを感じたりし、自信を持って、いろいろなことへの関心意欲を高める。
- ・心を動かすものや美しいものにふれ、やってみたいことや好きなことを持つ。

聴いて、話して、分かち合おう。 (絆力)

- ・戸外で様々な年齢の友達と元気に遊ぶ。
- ・相手に自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりし、分かり合おうとする。
- ・友達と共通の目的に向かってやり遂げ、喜びを感じる。
- ・友達の良いところに気付く。
- ・あいさつをする。

生活上の自立
(基本的生活習慣の自立、人・ものとの関わる力の育成)

学びの自立
(興味・関心・意欲を高める)

精神的な自立
(自己肯定感・我慢する力の育成)

基本的な3つの視点

「遊び」や「生活」を通しての
生きる力*の基礎力の育成

情緒の安定

家庭、地域、教育・保育施設





学校教育目標

知・徳・体のバランスの取れた生きる力を持ち、
国際的な視野に立って地域の発展に貢献する人材を育成する
使 命

- ・ 6年間の体系的・系統的な教育を実施し、高い教養と健康な心身をもち、地域社会を担う人材の育成
- ・ 多様な体験的活動を通して視野を広げ、生涯にわたって主体的に学ぶ姿勢を継続できる人材の育成
- ・ 故郷を愛する心を持ち、グローバルな視野を持ちながら、地域社会で活躍できる人材の育成
- ・ 義務教育と高校教育をつなぐ基幹校として、長野市の未来を拓く教員の育成

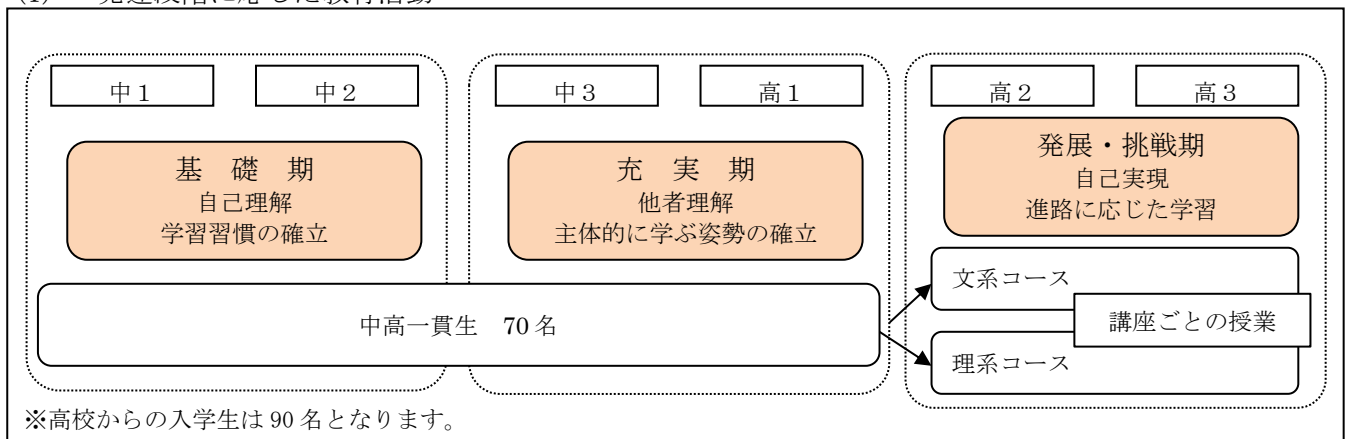
1 長野市立中学校の基本的事項

- | | |
|----------------|---------------------|
| (1) 学校名 | 長野市立長野中学校（通称 市立長野中） |
| (2) 設置形態 | 併設型中高一貫教育校 |
| (3) 学校規模 | 1学年2学級 70名 |
| (4) 通学範囲 | 長野市内 |
| (5) 開校年度 | 平成29年4月 |
| (6) 高等学校の課程・学科 | 全日制課程 単位制総合学科 |



2 長野市立中高一貫教育校の6年間

(1) 発達段階に応じた教育活動



(2) 授業時間数

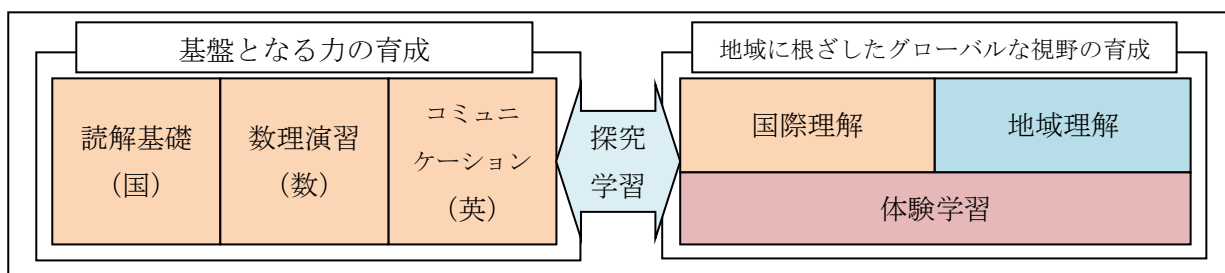
週 32 時間授業（標準 29 時間）を実施し、年間授業時数 1120 時間（標準 1015 時間）を設定します。

週あたり増えた 3 時間を学校独自教科（特にその他必要な教科）「探究基礎」とし、特色ある教育活動を行います。

(3) 特色ある教育活動

① 「翼プロジェクト」

「総合的な学習の時間」と「探究基礎」を活用し、地域に根ざしたグローバルな視野を持つための探究学習を行います。



② 習得・活用・探究の繰り返しによる学習

中高6年間の学習プログラム 外国語・理数教育の充実 主体的・対話的で深い学び

③ 多様な形態や集団による教育活動

少人数学習 習熟度に応じた学習 テーマ別学習 中高合同の学校行事・部活動

※入学者については、適性検査を実施する。



資料3 「長野市キャリア教育ガイドライン」(抜粋)

1 目標

自律心と創造性豊かな人間の育成

～ 自分を知り、自分をつくり、自分を活かすキャリア教育 ～

2 方針

- (1) 家庭・地域の教育力を生かし、地域社会全体で子どもを育てる。
 - ・ 人材・環境・文化等のすぐれた教育力を活用する。
 - ・ 地域社会でさまざまな体験をし、多くの人と触れ合うことを通して、学ぶ目的や働く意味、生き方等について考えさせる。
- (2) 発達段階に即し、幼保・小・中・高が一貫した理念で子どもを育てる。
- (3) 各学校では、既存の取組や教育活動をキャリア教育の視点から見直し、体系化する。

3 方策

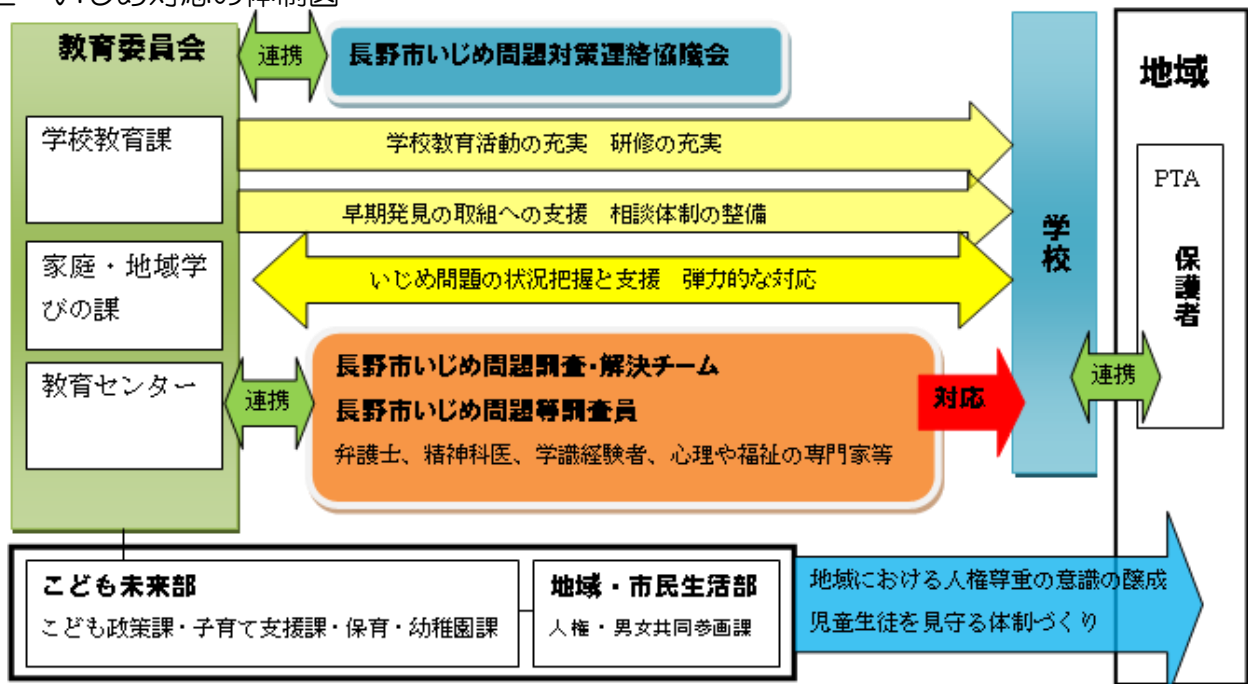
- (1) 家庭・地域の教育力を活用し、学校におけるキャリア教育を支援するための仕組（プラットフォーム）を市教育委員会内におく。
- (2) 幼保・小・中・高の連携をキャリア教育の視点で更に推進する。
- (3) 各校でキャリア教育の目標、指導計画の見直しを行うとともに、職場体験学習等の事前・事後の指導を充実し、その振り返りを通して自分自身の成長や今後の課題に気づかせる。
- (4) また、教職員のキャリア教育に対する意識統一を図り、指導力向上のための研修を推進する。

資料4 長野市「いじめ防止等のための基本的な方針」(抜粋)

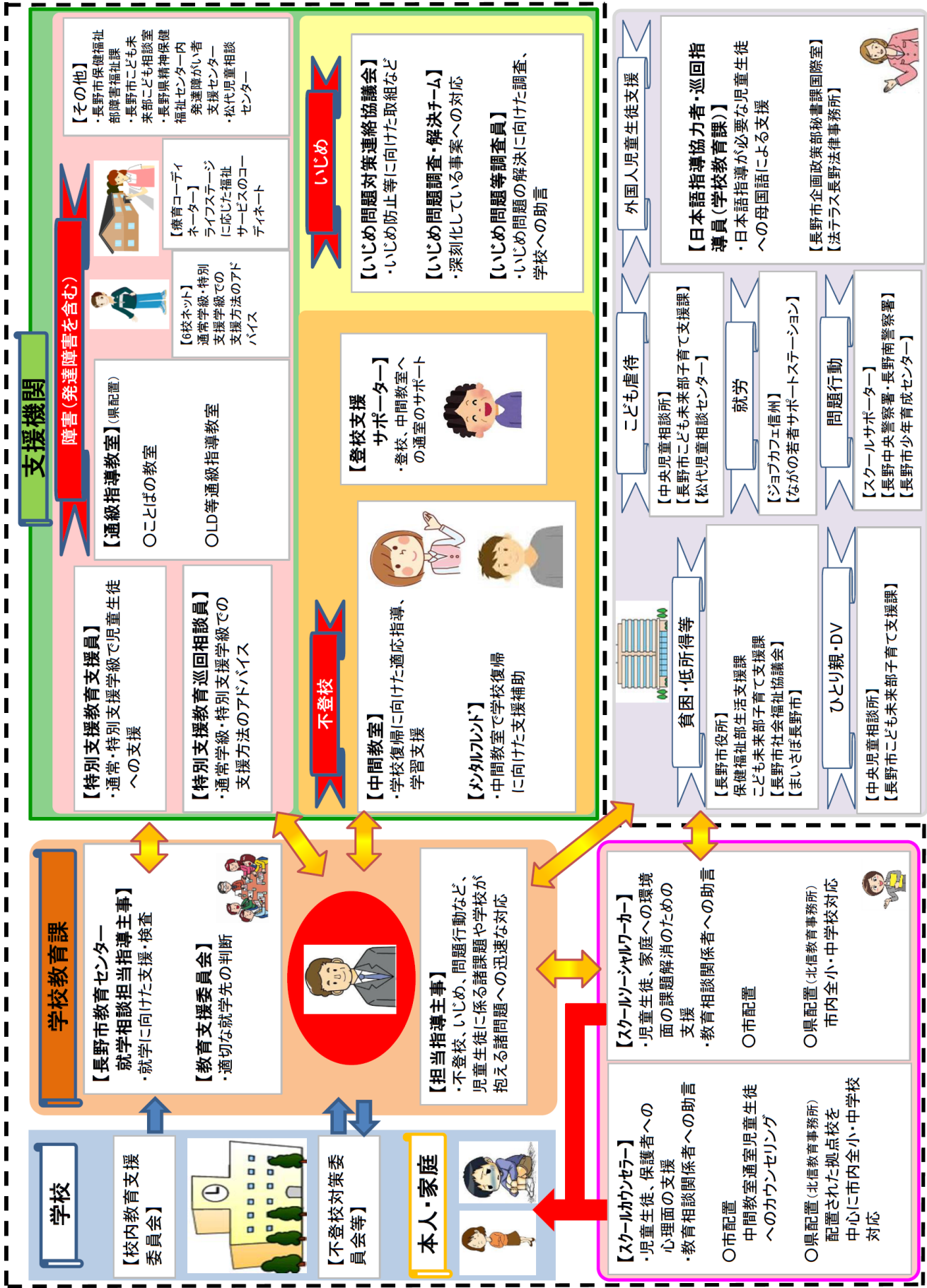
1 いじめ防止等に対する考え方

- ① いじめを許さない質の高い集団づくり
- ② いじめを見抜く教職員の力量の向上
- ③ 専門家と連携した組織的ないじめ対応の体制づくり
- ④ 保護者・地域・関係機関及び団体と連携した開かれた学校づくり

2 いじめ対応の体制図



資料5 加野市学校と家庭を支える相談支援体制



資料6 さんさんプラン

長野市特別支援教育「さんさんプラン」

長野市教育委員会（学校教育課）

プラン1

特別な支援を必要とする児童生徒へ、

- ・担任等の**フットワーク**
- ・校内教職員・保護者の**チームワーク**
- ・関係機関等を含めた**ネットワーク**

これらにより適切な指導及び必要な支援をおこなうことで、長野市立小中学校における特別支援教育の充実を図る。

プラン2

適切な指導及び必要な支援を行うために、その子の教育的ニーズに添った**内容**(含む 支援の時間)・**人**・**場所**を用意する。

- ・その子の指導・支援に必要な内容と時間を用意する。
- ・その子への指導・支援に適切な人(支援者)を用意する。
- ・その子への指導・支援に適切な場所(含む教材・教具)を用意する。

資料7 長野県中学生期のスポーツ活動指針（抜粋）

長野市教育委員会では、部活動は、中学生にとって心身ともに健やかに成長していく上で重要な活動と考え、「長野県中学生期のスポーツ活動指針」を尊重します。

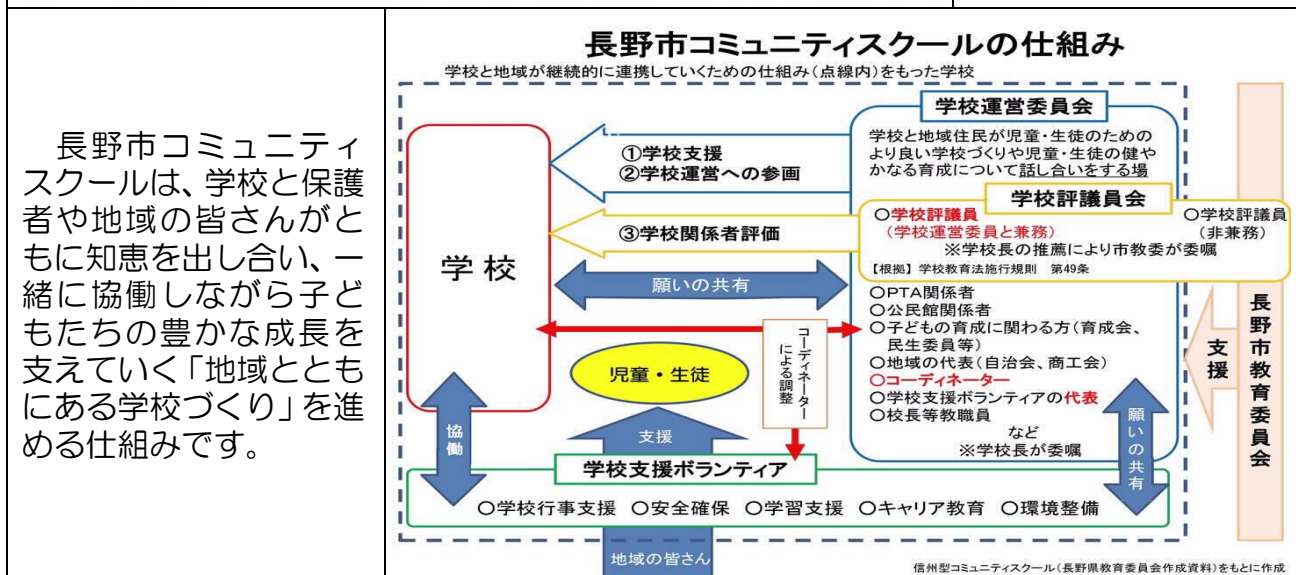
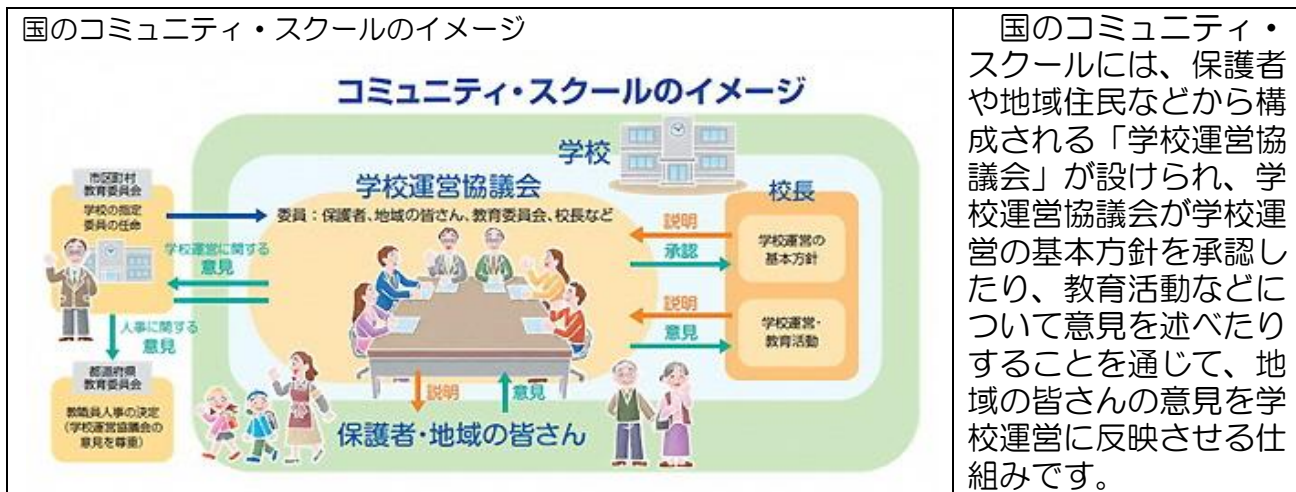
各学校は平成27年度から、県の指針に基づいて部活動を実施しています。市教委は、各校の状況把握に努め、課題に対しては、県教育委員会スポーツ課、長野市校長会とともに見直しを図ります。

長野県中学生期のスポーツ活動指針概要

- (1) 部活動の運営体制と運営の充実
- (2) 部活動の指導の充実
- (3) 部活動の活動基準
- (4) 「部活動の延長として行われている社会教育活動」について
- (5) スポーツ活動運営委員会の機能の充実
- (6) 県教育委員会及び市町村教育委員会の役割
- (7) 地域の社会教育活動
- (8) 小学生期のスポーツ活動
- (9) 成長期にある中学生期のスポーツ活動を実施する上で留意すべき視点
- (10) 取組の状況把握と指針の見直し

資料8 長野市コミュニティスクール事業（概要）

1 国のコミュニティ・スクールと長野市コミュニティスクール



2 コミュニティスクール関係の補助金について

(1) 補助の仕組み

補助事業	補助金の種類	補助対象		
		運営委員会設置校		未設置校
		学校マイプラン コミュニティ枠対象校	学校マイプラン コミュニティ枠非対象校	
コミュニティスクール	コミュニティスクール運営委員会補助金	○	○	×
学校マイプラン	学校マイプラン推進事業補助金（一般枠）	○	○	○
	学校マイプラン推進事業補助金（コミュニティ枠）	○	×	×

(2) コミュニティ枠の実践例

- ・花壇・畑の整備、校庭への遊具設置
- ・CS 運営組織のウエア、交流スペース整備
- ・福祉施設等の生徒ボランティアのユニフォーム整備
- ・地域芸能学習のための教材整備
- ・環境美化活動のための機材整備

資料9 長野市大人と子どもの心得八か条

家族が助け合い、支え合うことで、思いやりの心を育み、また、基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、自律心の育成や心身の調和のとれた発達など、家庭が教育に果たす役割を明らかにします。 ～第二次長野市教育振興基本計画より～

長野市大人と子どもの心得 八か条

教育の原点は家庭

まずは親が家庭で真剣に取り組むことが必要ですが、さらに学校とも地域とも補い合い、子ども達が誇りと自信を持って世に出ていけるよう育てあげましょう。
長野市では大人が自ら手本を示し、家庭で学校で地域で子ども達を育む活動を実践します。

- 一、『おはよう』『おやすみなさい』
元気に笑顔で挨拶します
- 二、『ありがとう』『ごめんなさい』
気持ちを素直に伝えます
- 三、相手の立場に立って考えます
- 四、決まり約束を守ります
- 五、我慢する心を持ちます
- 六、年長者を敬い大事にします
- 七、すべての命を大切にします
- 八、ズク出して夢に向かって努力します

毎月第3日曜日は
『長野市家庭の日』

家庭教育力向上運動

長野市PTA連合会・長野市校長会・長野市教育委員会



【用語解説】

用語	解説
アプローチカリキュラム	就学前の幼児が、スムーズに小学校の生活や学習に適應できるようにするとともに、幼児期の学びや育ちを小学校教育につなげるためのカリキュラムのこと
ICT	Information and communication technology の略で、情報通信技術
生きる力	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力 ・自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性 ・たくましく生きるための健康や体力などを総称したもの
いじめ防止基本方針	平成25年6月に公布された「いじめ防止対策推進法」に基づき、本市では平成27年4月に策定し、法の規定を踏まえた組織の設置、重大事態への対処法、必要な措置等を定めた本市の方針
一校一国運動	市内の小・中学校が相手国を決め、その国の文化や歴史の学習と交流を通して国際理解や友好を深めようとするために長野オリンピックの開催をきっかけに始まった運動
OJT型(研修)	職場(学校)内で、具体的な仕事を通じて、仕事に必要な知識・技能・技術・態度等を意図的、計画的、継続的に指導(研修)を行い、職場(学校)全体の力量を高める活動
課題探究型学習	子どもたちが、自ら設定した課題を主体的に解決していく学習
学校マイプラン推進事業	学校ごとの理念に基づいた特色ある教育方針に沿って、創意工夫を活かして実施される特色ある教育活動を推進する事業
学習チューター	信州大学と清泉女学院大学の学生希望者が、各学校に入り、学習支援や児童生徒の活動支援を行う無報酬の活動
カリキュラム	学校の教育目標を達成するために、児童・生徒の発達段階や学習能力に応じて、順序だてて編成した教育内容の計画、教育課程
キャリア教育	一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方の実現を促す教育
しなのき児童生徒意識アンケート(STSアンケート)	長野市が独自に開発したアンケートであり、自分の存在や行動が級友に承認されているか、不適應感を感じ、いじめ・冷やかし等を受けているかを調査し、指導に活かすもの
生徒会サミット	各中学校生徒会の代表者が集まり、自ら企画・運営を行い、交流し、情報交換する場
さんさんプラン	担任の「フットワーク」、校内の教職員の「チームワーク」、関係機関の連携を含めた「ネットワーク」の3つにより、障害のある児童生徒の教育的ニーズを把握し、適切な指導と必要な支援を行うための事業
質問紙調査	文部科学省が実施する全国学力・学習状況調査のうち、児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査
支会(7支会)	長野市を7地域に分割して運営する組織
姉妹都市・友好都市	姉妹都市：アメリカ合衆国クリアウォーター市 昭和34年姉妹都市提携 友好都市：中華人民共和国石家庄市 昭和56年友好都市提携

スクールカウンセラー (SC)	不登校やいじめ、問題行動等の悩みを抱えた児童生徒や保護者、学校関係者などに、カウンセリングや外部機関との連携を通して心理面の援助を行う、高度な専門性を有する臨床心理士等
スクールソーシャル ワーカー (SSW)	児童相談所を始めとした行政機関などの外部機関と小中学校との連携環境の構築、あるいは保護者の経済状況や就労状況などの生活面で、特に重大な困難や福祉的援助の必要性が認められる家庭への、社会保障・生活保護提供などを含めた自立支援相談を職務とする社会福祉士または精神保健福祉士
スタートカリキュラム	小学校へ入学した子どもが、幼稚園・保育所・認定子ども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム
長野市学校 安全・安心ネット	登録者に不審者情報や危害獣等の緊急情報を教育委員会から配信したり、学校行事や参観日、インフルエンザによる授業短縮、学級閉鎖等の情報を学校から配信したりするシステム
中間教室	不登校状態が続き、自分の意志で通室できる子どもを対象に、情緒の安定、集団生活への適応、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善のため、適応指導員が相談・適応指導を行う教室
登校支援 コーディネーター	登校支援の推進役として、不登校や学級不適應に悩む児童生徒やその保護者への支援、実態把握と校内の情報共有、教育相談関係機関との連携や校内チーム支援体制の充実を図っている各学校に在籍している教員
登校支援サポーター (家庭訪問相談員)	家庭や学校を訪問し、不登校・いじめ及び各種の悩みを抱える児童・生徒や保護者に寄り添い、心の安定を図ると共に、登校ができるように支援する有償ボランティア
長野市 コミュニティスクール	学校と保護者や地域住民が運営委員会を組織し、子どもたちの育ちについて地域と学校がともに話し合い、それぞれの役割を明らかにしながら、豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組
発達支援あんしん ネットワーク事業	発達について、専門的な支援が必要な子どもや、保護者に対して、関係機関との連携・協力を図り、適切な支援を行うことを目的としたもので「にこにこ園訪問」「地域発達支援会議」の2つの事業からなる
放課後子ども 総合プラン	地域社会の中で、放課後や週末などに全ての児童が、安全・安心に過ごし、多様な体験及び活動を行うことができるよう、放課後児童健全育成事業及び地域住民等の参画を得て、放課後等に学習や体験・交流活動などを行う事業に取り組む計画
メンタルフレンド	中間教室において、適応指導員の指導のもと、不登校児童・生徒への援助、学習支援活動を行う有償ボランティア
ユニバーサルデザイン	障害の有無にかかわらず、すべての子どもたちが、参加しやすく、分かりやすい対策を行った授業や教室環境
リテラシー	自ら必要な情報を集め、選択・活用し、課題を解決していく力 特定の分野の知識や、それを活用する能力



第二期しなのきプラン イラスト協力
市立長野高等学校 美術部
山岸 海斗 さん 清野 一紗 さん



しなのきプラン シンボルマーク 『がっぴい』

ながのご縁を  信都・長野市

「しなのきプラン」は、長野市教育委員会事務局学校教育課のホームページに掲載してあります。
(長野市ホームページ⇒教育委員会⇒学校教育課⇒「しなのきプラン」)

HPのQRコード

長野市教育委員会事務局学校教育課 長野市大字鶴賀緑町 1613 番地
メール：gakukyou@city.nagano.lg.jp

